

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第70集

岩村田遺跡群

かん のん どう  
観 音 堂 遺 跡

長野県佐久市大字岩村田観音堂遺跡発掘調査報告書  
(中世集落)

1999.3

株式会社エス・エス・ブイ  
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第70集

岩村田遺跡群

かん のん どう  
觀 音 堂 遺 跡

長野県佐久市大字岩村田觀音堂遺跡発掘調査報告書  
(中世集落)

1999.3

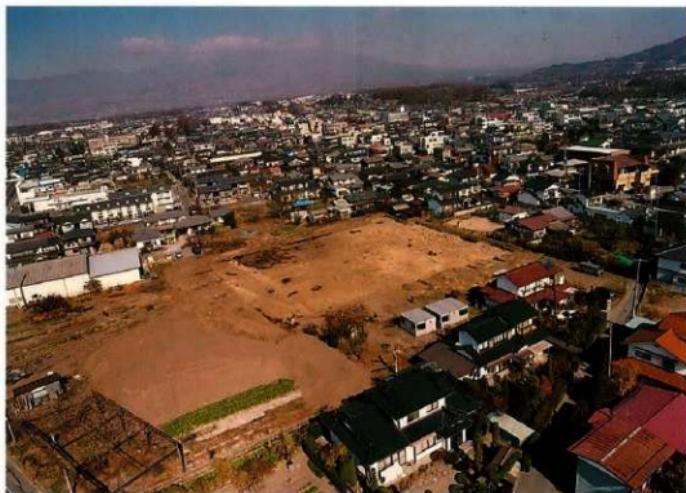
株式会社エス・エス・ブイ  
佐久市教育委員会

卷頭図版  
一 航空写真



観音堂道路全景航空写真（撮影：㈱こうそく 1997.10）

卷頭図版  
二  
航空写真



観音堂遺跡遠景（撮影 鶴こうそく）



観音堂遺跡近景（撮影 鶴こうそく）

卷頭図版  
三 観音堂遺跡出土の陶磁器



( ) の数字は第8表 観音堂遺跡出土陶磁器一覧表の番号

卷頭図版 四 観音堂遺跡出土の陶磁器



古瀬戸 (31 ~ 32)



古瀬戸 (33 ~ 37)



山茶碗系 (38 ~ 41)



山茶碗系 (42 ~ 44)



山茶碗系 (45 ~ 48)



山茶碗系 (49 ~ 51)



常滑 (52 ~ 54)

卷頭図版  
五  
觀音堂遺跡出土の陶磁器



瓦質擂鉢 (55 ~ 58)



瓦質擂鉢 (59 ~ 62)



瓦質擂鉢 (63 ~ 65)



瓦質香炉・火鉢 (66 ~ 68)



近世・近代陶磁器 (69 ~ 76)



近世・近代陶磁器 (77 ~ 81)



近世・近代陶磁器 (82 ~ 89)



近世・近代陶磁器 (90 ~ 95)

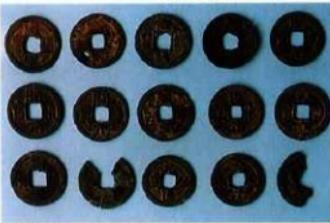
卷頭図版 六 観音堂遺跡出土の陶磁器・渡来銭



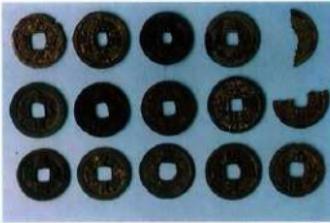
近世・近代陶磁器 (96 ~ 101)



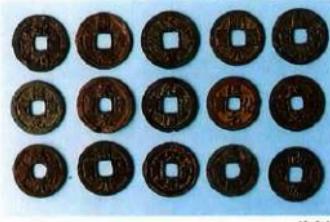
近世・近代陶磁器 (102 ~ 107)



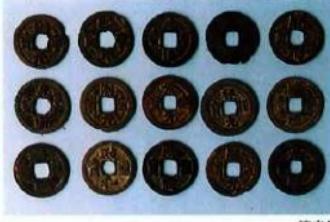
渡来銭



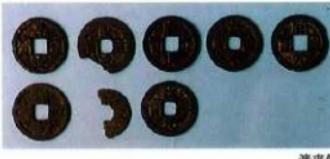
渡来銭



渡来銭



渡来銭



渡来銭



鈸 (Tal)

## 例　　言

1. 本書は平成9年9月22日～11月4日まで発掘調査を行った、株式会社エス・エス・ブイの店舗新築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は株式会社エス・エス・ブイの委託を受け、佐久市教育委員会埋蔵文化財課が担当した。
3. 本遺跡は平成7年7月10～17日に佐久市教育委員会埋蔵文化財課により試掘調査され、佐久市埋蔵文化財調査報告書第54集『市内遺跡発掘調査報告書1995』に試掘の結果が掲載されている。
4. 本書で掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図（1:25,000・1:50,000）、佐久市発行の基本図（1:2,500）を使用した。
5. 航空写真は㈱こうそくに委託し、それを使用した。
6. 自然科学分析・鑑定関係では次の方々に依頼し、原稿を賜り報告書に記載した。  
樹種・貝類鑑定　パリノ・サーヴェイ株式会社  
人骨鑑定　聖マリアンヌ大学　平田和明・炎千奈美氏  
獸骨・魚類鑑定　群馬県立大岡々高校教諭　宮崎重雄氏  
陶磁器鑑定　長野県埋蔵文化財センター　市川隆之氏  
歴史的環境　佐久考古学会顧問　井出正義氏
7. 本書の編集・執筆は三石宗一指導下、森泉かよ子が担当した。
8. 本遺跡の遺物は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡　　例

1. 遺構番号は、発掘調査時の番号を変更しないでそのまま使用しているため、欠番がある。
2. 遺構の略号は次の通りである。  
H—堅穴住居跡、Ta—堅穴建物跡・堅穴状遺構、D—土坑・土壙墓・井戸跡、  
P—単独ピット、M—溝状遺構
3. 掘図中の遺構の縮尺は原則として次の通りである。異なる場合は掲載図に明記する。  

堅穴住居跡・堅穴建物跡・堅穴状遺構	1/80
土壙墓・土坑	1/60
単独ピット	1/160
溝状遺構	1/200

4. 掘図中におけるスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構



地山断面



火床・焼土

遺物



須恵器



黒色処理・煤



礫



金属断面

5. 中世遺跡から検出された堅穴についての呼称は「堅穴建物跡」と「堅穴状遺構」を使用した。「堅穴建物跡」は柱を建てて上屋を構築したことが想定できるもの。「堅穴状遺構」は配列された柱穴や礫石がなく、容易に上層の構築物を想定しにくいもの。堅穴状遺構は土坑との分類が判然としない。
6. 掘図中の遺物の縮尺は、土器・かわらけ・陶磁器・鉄製品・石製品は1/4である。古鏡の拓影図は遺構図と並列してあるものは1/2、拓影図のみものは原寸である。異なる場合は図中に明記してある。

## 目 次

巻頭図版

例言

凡例

本文目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 調査に至る動機	1
第2節 調査組織	2
第3節 調査日誌	3
第4節 調査の概要	4
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	6
第1節 遺跡周辺の地形・地質	6
第2節 遺跡の歴史的環境	8
第Ⅲ章 基本層序	14
第Ⅳ章 遺構と遺物	15
第1節 壺穴住居跡	16
第2節 壺穴建物跡・壺穴状遺構	21
第3節 井戸跡	53
第4節 土壙墓	58
第5節 土坑	60
第6節 単独ピット	123
第7節 溝状遺構	130
第Ⅴ章 総括	184
付編 佐久市観音堂遺跡の獸骨	192
佐久市観音堂遺跡出土人骨について	195
観音堂遺跡における遺構構築材と食料残渣について	198
パリノ・サーヴェイ株式会社	

## 挿図目次

第1図 観音堂遺跡位置図	1	第29図 T a 24堅穴状遺構	48
第2図 観音堂遺跡遺構配置図	5	第30図 T a 25堅穴状遺構	49
第3図 発掘区設定図	7	第31図 T a 26堅穴建物跡	50
岩村田町文明・永正度の古図	9	第32図 T a 27堅穴建物跡	52
第4図 周辺遺跡分布図	11	第33図 土坑(井戸跡)全体図(1:400)	53
第5図 基本層序模式図	14	第34図 D 8号井戸跡	54
第6図 H 1号住居跡	16	第35図 D 80号井戸跡	55
第7図 H 1号住居跡	17	第36図 D 107号井戸跡	56
第8図 H 1号住居跡	18	第37図 D 122号井戸跡	57
第9図 堅穴建物跡・堅穴状遺構全体図(1:250)	58	第38図 土壙墓	58
	21	第39図 方形基調土坑分布図	60
第10図 Ta 2・Ta 3・Ta 4堅穴状遺構	22	第40図 I A 3土坑	62
第11図 Ta13・Ta16堅穴状遺構	24	第41図 I A 3土坑	63
第12図 Ta 5堅穴建物跡	26	第42図 I A 4・I A 5土坑	65
第13図 Ta14堅穴状遺構	27	第43図 I A 4土坑(D25)	65
第14図 Ta 6堅穴状遺構	28	第44図 I C 5土坑(D15)	66
第15図 Ta11堅穴建物跡	30	第45図 I B 3土坑	67
第16図 Ta12堅穴建物跡	32	第46図 I B 3土坑・I B 4土坑	68
第17図 Ta23堅穴建物跡	33	第47図 I C 3土坑・I C 4土坑	72
第18図 Ta15堅穴建物跡	34	第48図 I C 3土坑	74
第19図 Ta 1堅穴状遺構	36	第49図 I C 3土坑	75
第20図 Ta 7・Ta 8堅穴建物跡	38	第50図 I C 4土坑	78
第21図 Ta 9堅穴状遺構	39	第51図 I D 3・4・5土坑	80
第22図 Ta17堅穴状遺構	40	第52図 II A 2土坑	83
第23図 Ta18堅穴建物跡	41	第53図 II B 2土坑	86
第24図 Ta19堅穴建物跡	42	第54図 II A 3土坑	89
第25図 Ta10堅穴建物跡	44	第55図 II A 3土坑	90
第26図 Ta20堅穴状遺構	45	第56図 II A 3土坑	91
第27図 Ta21堅穴状遺構	46	第57図 II B 3土坑	98
第28図 Ta22堅穴状遺構	47	第58図 II B 3土坑	100

## 付表目次

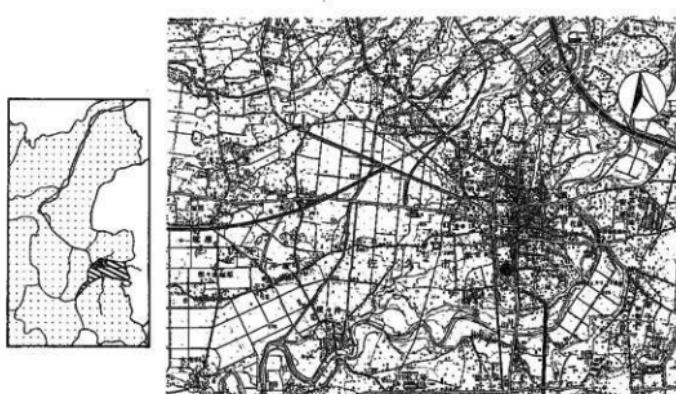
第59図 II B 3 土坑	102	第1表 周辺遺跡一覧表	12
第60図 II B 3 土坑	108	第2表 H 1号住居跡出土土器観察表	149
第61図 II C 3 土坑	112	第3表 観音堂遺跡出土かわらけ観察表	151
第62図 II C 4 土坑	116	第4表 観音堂遺跡出土渡来鏡一覧表	154
第63図 II B 4 土坑	117	第5表 観音堂遺跡出土鉄・銅製品一覧表	156
第64図 I (方形) 土坑	119	第6表 観音堂遺跡出土羽口一覧表	157
第65図 II 土坑	120	第7表 観音堂遺跡出土鉄滓一覧表	157
第66図 III A 3 土坑	122	第8表 観音堂遺跡出土陶磁器一覧表	158
第67図 観音堂遺跡単独ピット全体図	124	第9表 観音堂遺跡単独ピット一覧表	161
第68図 単独ピット(1)	125	第10表 観音堂遺跡土坑一覧表	177
第69図 単独ピット(2)	126	第11表 観音堂遺跡竪穴住居跡・竪穴建物跡 ・竪穴状遺構一覧表	183
第70図 単独ピット(3)	127		
第71図 単独ピット(4)	128		
第72図 単独ピット出土遺物	129		
第73図 グリット・表採	129		
第74図 M 1・M 3 溝状遺構	130		
第75図 M 2 溝状遺構	131		
第76図 M 2 溝状遺構	132		
第77図 観音堂遺跡出土かわらけ(1)	138		
第78図 観音堂遺跡出土かわらけ(2)	139		
第79図 観音堂遺跡出土渡来鏡(1)	140		
第80図 観音堂遺跡出土渡来鏡(2)	141		
第81図 観音堂遺跡出土渡来鏡(3)	142		
第82図 観音堂遺跡出土渡来鏡(4)	143		
第83図 観音堂遺跡出土渡来鏡(5)	144		
第84図 観音堂遺跡金剛	184		
第85図 観音堂遺跡円形基闡の土坑分布図	187		

## 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

### 第1節 発掘調査に至る動機

ここ上の城遺跡群は岩村田市街地の南側に当たり、南の崖下に湯川が北から流れこの台地を巻いて西に方向を変えている所である。本遺跡群では昭和48年度に上の城遺跡が調査され、北側には中世の大井城跡が残る岩村田遺跡群、西側には谷を挟んで佐久市でも有数の遺跡にあげられる一本桟遺跡群や北西久保遺跡群がある。

平成7年7月店舗新築に伴い遺跡内の遺構確認を行うため、佐久市教育委員会で試掘調査を行ったところ、堅穴住居跡や堅穴状造構等のプランが検出された。平成9年今回の発掘調査に至ったのは、原因者株式会社エス・エス・パイが店舗新築を行うこととなり、佐久市教育委員会埋蔵文化財課が委託を受け、発掘調査を行うこととなった。対象面積10,145m<sup>2</sup>の内、駐車場は遺構に影響しないことから埋土保存とし、破壊のやむを得ない店舗部分の3,071m<sup>2</sup>のみ発掘調査を行った。



第1図 聰音寺遺跡位置図 (1:50,000)

## 第2節 調査組織

発掘調査受託者 教育長 依田 英夫

〔事務局〕

教育次長 市川 源（平成10年3月退職）・北沢 薫（平成10年4月就任）

埋蔵文化財課長 須江 仁胤

管理係長 桶澤慶子（平成10年3月移動）

埋蔵文化財係長 大塚 達夫（平成10年3月移動）・荻原 一馬（平成10年4月）

埋蔵文化財係 林 幸彦・三石 宗一・須藤 隆司・小林 真寿・羽田卓也・富沢 一明

上原 学

調査担当 三石 宗一・森泉かよ子

調査員 荒井ふみ子・井上 行雄・井出 爰子・上原 幸子・小田川 荘・小幡 弘子

小金沢たけみ・小林 幸子・小林 立江・小林まさ子・清水佐知子・角田すづ子

角田トミエ・東城 友子・東城 幸子・並木ことみ・花里四之助・花里三佐子

林 美智子・水間 雅義・宮川百合子・柳沢千賀子・山崎 直



写真1 調査風景

### 第3節 調査日誌

1997.9 重機により表土を剥ぎ始める。

1997.9.26 機材の搬入。

1997.9.29 本日より調査員も参加し発掘調査開始。

遺構の検出作業を行う。

浅間エンジニアリングにグリット杭を依頼する。

1997.9.30 遺構の規模が小さく密集していることが確認されたので、南東から順次遺構を掘り下げ調査することにする。

1997.11.4 本日にて現場における作業が終了する。

1997.11.5 機材の撤収をする。本日より室内に

て、報告書作成作業に取りかかる。

1997.11.25 土器洗いを終了し、図面修正を行う。

1999.3.31 報告書を刊行する。



写真2 調査風景



写真3 調査風景



写真4 調査風景



写真5 重機による耕作土除去



写真6 ラジコンヘリによる航空撮影風景

## 第4節 調査の概要

遺跡名 上の城遺跡群觀音堂遺跡（かんのんどう）

（略称 IUK）

所在地 長野県佐久市大字岩村田2119-1他

開発主体者 株式会社エス・エス・ブイ

開発事業名 店舗新築

調査期間 発掘調査 平成9年9月22日～11月4日

整理調査 平成9年11月5日～

平成11年3月31日

開発対象面積 10,145m<sup>2</sup>

調査面積 3,071m<sup>2</sup>

検出遺構

平安時代 穹穴住居跡 1棟

中世 穹穴建物跡、穹穴状遺構 27棟

土坑 170基

土壤墓 4基

中～近世 溝状遺構 3本

出土遺物

平安時代 土師器、須恵器

中世 陶器、磁器、渡来鏡

鉄製品（釘、刀子、鏡）

人骨、獸骨、貝類



写真7 H1号住居跡



写真8 Ta11.12号穹穴建物跡



写真9 D107号井戸跡



写真10 D150号石を多く伴う土坑

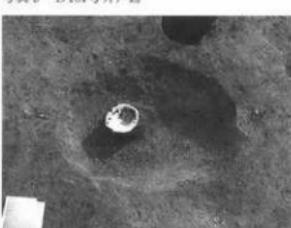


写真11 D67号具が出土した土坑

第4節 調査の概要



第2図 観音堂造跡造構配図(1:1,000)

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 遺跡周辺の地形・地質

佐久市付近の地質図をみると、東側には第三紀の荒船火山を含む関東山地に連なる山々がある。西側の千曲川左岸は、第三紀の小諸層群の上を八ヶ岳火山類が覆い御牧ヶ原に連なっている。この間に広がる佐久平は、滑津川より北では第1軽石流と塚原泥流が分布している。御代田町馬瀬口から小諸市森山を結ぶ線から北では第2軽石流があらわれる。佐久平北部で特徴的な田切地形は、第1、第2軽石流の分布域に限られており、ほぼ、北東から南西の方向に刻まれている。北東方向の追分原に田切地形が見られないのは、おもに1108年の噴出による追分火碎流によって田切が埋め尽くされたからである。岩村田の住吉町から長土呂にかけて、また、長土呂の西、常田の北の辺りで田切地形が消滅しているのは、ここより南は、いわゆる「塚原泥流」の分布域で第1軽石流が及んでいないからである。塚原泥流、第1軽石流、第2軽石流、追分け火碎流はいずれも浅間火山の崩壊物質と噴出物であり、この順に新しくなる。（中略）

「塚原泥流」の西側を除く北・東・南側には約13,600年前の噴出の第1軽石流が分布している。この時の噴火で多量の火山灰が成層圏まで吹き上げられ、上空の偏西風にのって北関東の広い範囲に板鼻黄色軽石層（Y P）を堆積させた。上空まで上昇仕切れずに途中から火口付近に落下した多量の火山灰と軽石は、自ら発するガスとの混合物となって高速の火碎流となり、佐久平を完全に埋めつくした。第1軽石流は厚いところは30mにも達するが、これによって千曲川が堰止められて大きな湖が出現したことは湯川と滑津川の河岸で水成層として認めることができる。

（1994.3 樋口和雄 「藤塚古墳群・藤塚II」 - 第1節 周辺遺跡の地形・地質 -）

発掘調査をした岩村田の觀音堂遺跡は佐久平の東北部にあり、標高700mを測る。すぐ南を湯川が流れ、浅間山の東麓から流出して南流。この岩村田の台地東南を取り巻くように西に流れる。湯川は蛇行して流れ、両脇に幅広い河岸段丘を作り出している。浅間第1軽石流を流し去って、右岸の黒岩城跡（大井城）辺りでは下層の塚原泥流が姿を出し、城跡の名となっている。その結果湯川と遺跡付近では標高差が20m近くある断崖となり、台地地形上の遺跡となっている。浅間第1軽石流の流出地ではあるが、湯川による、浸食作用の影響で遺跡の遺構構築面は第1軽石流が2次堆積した水成堆積層が基盤をなしている。また觀音堂遺跡の北西は深い谷が入り込んでおりその上に黒色土の堆積が見られた。

第1節 透溝周辺の地形・地質



第3図 発掘区設定図(1:7,500)

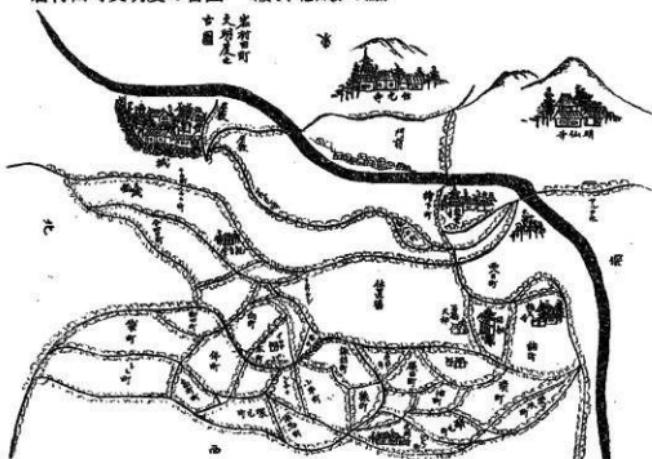
## 第2節 歴史的環境

平安時代後期、公地・公民を基本とする律令制が崩壊し、莊園制が発展とともにとともに、長土呂地区の佐久郡衙を中心とした勢力は衰退して、各地の有力土豪を中心とした、武士の勢力が台頭してきた。治承4年（1180）、以仁王の令旨をうけて平氏追討にたちあがった信濃源氏木曾義仲を擁立して、滋野氏流の根井幸親父子を中核とした、落合・志賀・桜井・野沢・石突・本沢・矢島・望月・小室・平原などの佐久党的武士団は、平家を京都から追って、武家政権への突破口を開いたが、関東の鎌倉に基盤を置いていた源頼朝に敗れて、佐久党的多くが佐久の地から姿を消し、かわって源頼朝幕下の有力者、小笠原長清が、佐久郡伴野庄の地頭として送り込まれ、その子六郎時長と七郎朝光が、それぞれ伴野庄と大井庄の地頭となり、伴野氏と大井氏を名のった。

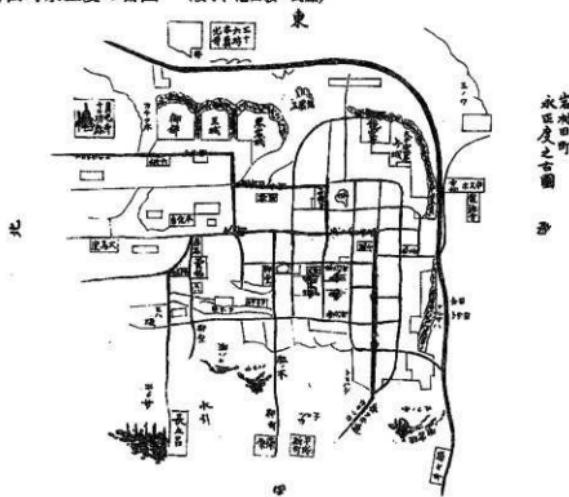
大井庄地頭大井氏は、湯川の断崖にのぞむ要害の地である岩村田に（大井城の地）に居館を構えたから、岩村田は名実ともに大井庄の中心となった。弘安8年（1285）霧月騒動（鎌倉幕府の内乱）で伴野氏一族が滅亡して、伴野庄は北条氏の所領となった。そのころ北条氏得宗家臣と、それに近い関係の、源勘氏と薩摩氏が、志賀と長土呂にそれぞれ入ったが、元弘3年（1337）鎌倉幕府が滅亡すると、志賀・長土呂は大井氏領に帰し、さらに南北朝の争乱から室町前期内に大井氏の勢力は、矢島・芦田氏を従え、望月氏を圧して、ほとんど川西地方全域を包含して、小県郡依田庄に及び、千曲川東岸地方は小諸以南全域を支配し、碓氷峠を越えて上州に及んだ。大井甲斐守光長（光栄）は、信濃守護政長の守護代として、足利将軍一信濃守護政權の安定に貢献した。大井越前守持光は將軍足利義教の意を受け、信濃守護小笠原政長（政長の子）と協力して永享8年（1436）小県郡の海野・祢津氏を降ろし、芦田氏を家臣としたので、大井持光は東信地方最大の雄族となった。永享11年、鎌倉公方足利持氏が滅亡すると、その遺児永寿王丸を佐久郡安原の安養寺かくまって養育した。文安4年（1447）永寿王丸が足利成氏と名のり、足利幕府によって鎌倉公方に就任したので、その育ての親、大井持光の勢威は一層高くなった。『佐久大井氏由緒』は大井の所領6万貫、小県・上州・武州に及び、兵力は在国6千騎、京都在勤（大番役）千騎と記す。この大井氏全盛時代の岩村田のようすが『四隣譜藏』には「むかし大井郷は民家6千軒、交易四達、輒ひ國府にまされり、八日町通石橋という所、城外市店の中央なりとぞ」とある。城外西方の八日町や石橋辻が市店の集中する市場経済の中軸部であった。戦国前期永正度（1504～20）の岩村田町古図によれば、八日市場の西側に觀音堂があり、その西側を福王寺前から北方に通る東大門町の北に柳堂がある。今回発掘調査された觀音堂遺跡、平成10年度に調査された柳堂遺跡は、当時の岩村田町中心部の南北に相対して存在していたことが確認できる。四隣譜藏に「八日町西に觀音堂あり、此の辻仏像を出すところあり、石に書写の經（経石）多くあり」とある。觀音堂南端を東に向かえば端下平（はけのたいら）に旧巣鴨寺があり、西に向かえば西八日町・一本柳を経て、北西久保

図2第 歴史的環境

岩村田町文明度の古図 (模写、池田教一氏蔵)



岩村田町永正度の古図 (模写、池田教一氏蔵)



一根々井一大和田と湯川北岸の段丘上を落合に達する。落合は湯川の千曲川合流点で、下流の土合と共に東山道古道の千曲川渡河点に擬せられる交通の要衝で、岩村田に館を構えた地頭大井光長は、ここに新善光寺を創建して、一光三尊の金銅製菩薩光寺仏と銅鐘（小海町松原神社蔵・国重文）を鋳造施し入し、ここを大井庄の淨土信仰の拠点とし、時宗の開祖一遍上人を大井館に迎えて、その跡と共に三日三夜の踊り念仏を行っている。

柳堂は柳町通りの北にあり、今は墓地になっている。両辺に高さ8~9尺のめうと石（夫婦石）がある。その東一町ばかりにかさ松と呼ばれる大木があって、数里も先から傘のように見え、その下に高さ1丈ばかりの九層の石塔があったという。柳堂の西方、若宮八幡宮は建仁2年（1202）大井朝光が鎌倉八幡宮を移し祀って祖神として尊崇してきたが、しばしば兵火によって衰退を繰り返した。しかし旧地をを存続して、明治になって郷社になった。柳町は岩村田城下の本町から、南方に向かう甲州道と川西望月方面への道の追分（分岐点）で、戦国時代には平坂付近から舟運経由で千曲川を渡って、御馬寄南方の柳坂から望月方面に向かい、後の中山道の原形がすでに開かれていった。このような交通路の交会点である八日町・石橋付近に集まって、大井氏の勢力をバックに活動していた職人の中で、鍛物師・鍛冶・番匠（大工）などが特に注目される。

鎌倉時代の弘安2年（1279）大井光長が落合新善光寺に寄進した銅鐘は、大和の国葛城下郡下田出身の鍛物師大工伴長を招いて落合のたたらばで鋳させたもので、大工伴長は評判を過度にして営業する中央在住の鍛物師であった。これに対して室町時代になると、白田町新海神社三重塔の青銅製風鈴には永正12年（1515）「鍛物師岩村田大主貞家」の刻銘がある。大永6年（1526）鋳造の落合慈寿寺（時宗寺の前身）の鈴口（長野市松代町和合院旧蔵）には「大工（鍛物師）岩村田和泉守」とある。嘉永2年（1849）再建松原神光寺三重の塔（現佐久市前山貞祥寺移建）の9輪には「鍛物師岩村田大主伝右衛門義貞」の刻銘があるから、室町時代には鍛物師大主氏が代々岩村田に在住定着していたことが確実である。その作品は他都にまで及んでいる。信大教授笠本正治氏は、大主氏は鎌倉時代に河内から関東に下ってきた鍛物師の子孫で、上野から内山峠を通って、信州有数の町岩村田に定住したと考えている。

中世の遺跡では必ず内耳の土器片が発見される。これは火にかけて煮炊きした土製の鍋釜である。鍛物師が定着して鉄製の鍋釜が生産されるようになると生活が大きく変化する。鍛物師と共に鉄製の道具を造る職人は鍛冶屋である。前記白田町新海神社三重塔風鈴には「鍛物師岩村田大工貞家、十日町鍛冶道徳対馬」とあり、岩村田の鍛物師大工大主貞家と、十日町の鍛冶の道徳対馬が協力して造ったことがわかるが、「岩村田文明度之古図」には、大井城の西に「十日町」があり、「岩村田町永正度之古図」には「御館」の西側に「カチクホ」がある。これが鍛冶窯だとすれば、この2枚の地図から、岩村田の十日町の近くに鍛冶が住んでいて、鍛冶道徳もその一人であるという推定が可能である。鍛冶が定着すれば領主や農民、職人等の要求に応じて、その用途に適した農具や

第2節 歴史的環境



第4図 國音堂運動而辺道路分布図(1:25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	検出遺構	調査年
1-1	上の城遺跡群報告堂遺跡	岩村田	本報告書	
1-2	上の城遺跡群西八日町遺跡	岩村田	竪穴住居跡弥生7・奈良～平安139	昭和58年
1-3	上の城遺跡群上の城遺跡	岩村田	竪穴住居跡古墳後15・奈良～平安34特殊造構1、上杭131、溝7	昭和60年
2-1	岩村田遺跡群佛受道跡	岩村田	中世の竪穴式造構、掘立柱建物跡、上杭、溝、井戸	平成10年
2-2	岩村田遺跡群内西通道路	岩村田	竪穴住居跡古墳1、中世竪穴式造構7・掘立柱建物跡13・上杭15・井戸6	昭和64年
2-3	岩村田遺跡群中密通路	岩村田	竪穴住居跡古墳後期3・中・近世竪穴式造構7・土杭10・溝2・特殊造構1	平成9年
2-4	大井川源流岩城	岩村田	竪穴住居跡古墳後期15・中世竪穴式造構5・土杭285・掘立柱建物跡3・溝2	昭和50年
3	一木御道跡群	岩村田	主に弥生中期・後期、古墳後期・平安の竪穴式造跡が多い。古墳も多く分布。	近年調査多い
4	円正の坊跡群円正の坊II	岩村田	竪穴住居跡弥生3・古墳後期2・平安2、掘立柱建物跡平安1、古墳1、土杭8	平成8年度
5	枇杷坂遺跡群	岩村田	弥生・古墳・平安	
6	長土呂遺跡群長土呂跡跡	長土呂	中世	
7	聖毛板遺跡群後藤郡遺跡	小田井	竪穴住居跡平安5・中世竪穴式造構、土杭	平成8・9年
8	番匠前遺跡群番匠前遺跡	猪俣	中世竪穴式造構	平成10年

工具・器具の作成が可能となり、地域の生産を向上する。岩村田には大工（番匠）も多く居住していた。城館・寺院・堂・社・町屋・住民の建築までその手を必要とする事が多かった。武田氏支配下の天正9年（1581）、武田勝頼は上州箕輪城の守将内藤昌月に対して、「竜雲寺方丈の修造に必要であるから、城普請に従事している大工のうち、竜雲寺門前の良き番匠3人を雇すように」と命令している。職人は戦争にも動員されていた。

岩村田の町には、南は甲州道、西からは落合・御馬寄方面、北は小諸・和田方面、東は上州道を通じて、運搬業者が運ぶ各地の物資・商人・職人・諸人が集まつた。八日市場には煙草堂があり、毎月三度の八の日に三齊の市が開かれ、買い物を兼ねた善男・善女でにぎわつた。「にぎわい国府にまさり」という情景である。

橋堂の東側に浄土宗一行山無量寿院西念寺が発住し、上人によって開山されたのは永祿3年（1560）といわれる。藤原本期様式をもつ本尊阿弥陀如来座像（県宝）は、安原安養寺の西御堂の本尊を移したものであるが、その永祿6年の修理銘によると、戦死者上原左衛門の遺物をその遺族が寄進したものである。その修理と金箔を用いた彩色に要した莫大な費用は、本願主となって奔走した大宮文三の2千びき（20貫文）の寄付をはじめとして、一紙半錢の少額に至るまで、多くの人々の奉仕によって完成したとある。半丈六の阿弥陀座像を遺産として寄進する有力な地侍、20貫もの大金を寄付する富裕な町衆、進んで零細な寄進を申し出る多数の庶民まで、活力のある岩村田の町のようすが想像される。

## 第2章 歴史的環境

「文明16年（1484）村上氏大軍の兵火によって、岩村田の町は、神社仏閣一塵の煙となって終におこらず。市店の地を縮めて岩村田に變る」とあるが、戦国末期までは、八日町・石橋付近の市店は相当な復活を遂げていたものと思われる。竜雲寺は現在地に移って、北高禪師のもと信玄分国曹洞宗の僧録となり、千人法輪が行われた。修驗道の法華堂や真言宗円満寺も復興した。阿弥陀仏の寺淨土宗西念寺も爰住上人によって開創された。

（井出 正義）

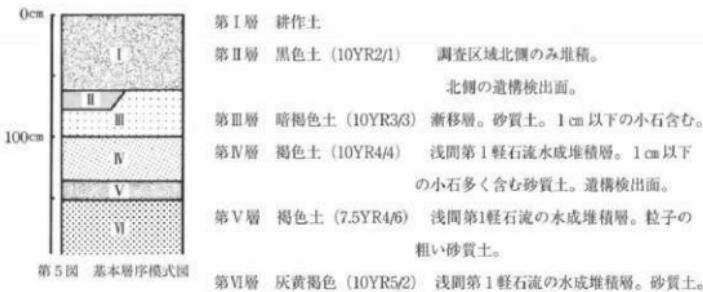
遺跡周辺の調査状況を概観すると、同じ上の城遺跡群では1-2西八日町遺跡では、弥生・奈良～平安時代の集落、1-3上の城遺跡では古墳時代後期・奈良～平安時代の集落が調査されている。台地の南端に沿って古代の集落が展開していた。少し北に寄った本觀音堂遺跡では、平安時代が1棟あるのみで中世の単独集落である。また平成10年度に発掘調査された2-1岩村田遺跡群柳堂遺跡はやはり中世の遺跡であるが、圍池や掘立柱建物跡など館の性格が看取され、遺物もかわらけ・天目茶碗などが目立つ。2-2内西浦も中世の遺跡である。60m×20mのなかに6組の井戸跡と不規則な掘立柱建物跡が伴うブロックがあり、職人町想像させる遺構がある。2-3中宿遺跡では中世から近世初頭の堅穴状遺構が見られた。2-4大井城跡の黒岩城跡が調査され、多くの堅穴状建物跡が密集しており、規模の大きな掘立柱建物跡もあり、遺物も多く、城郭として機能していたようすがうかがえた。3一本柳遺跡群及び西御の台地は近年道路の開通に伴って発掘調査例が多い。弥生時代中期から平安時代の古代集落が過密に展開している所である。5. 批杷坂遺跡群は標高の低い地点では弥生時代の集落も見られるが、標高730m地点では平安時代の集落に限られてくる。

6長土呂遺跡群も標高700m地点では弥生～平安、それを越えると古墳から平安時代の集落となる。6-1は長土呂館跡で中世初頭の方形単郭形態であり、大井跡の居館説もある。

7栗毛板遺跡群前藤部遺跡は6万m<sup>2</sup>にわたって中世の集落が展開していたことが確認された。

また本遺跡の南、湯川を渡った対岸の8番屋前遺跡でも中世の遺構が検出され、本遺跡の周辺で中世遺構の調査例が増えている。

### 第Ⅲ章 基本層序



第5図 基本層序模式図



写真12 基本層序

観音堂遺跡の遺構検出面は浅間第1軽石流水の水成堆積層であり、砂質土である。北側はその上に黒色土の堆積が見られ、その面から遺構が検出されている。遺構は東半域に見られ、西側にはないことから岩村田の中世の町の観音堂地籍の西端が判明したことになる。

## 第IV章 遺構と遺物

## 第1節 穫穴住居跡

### 1. H 1号住居跡

規模・形態 304cm×304cm×9.0~23cm (南北×東西×深さ)・隅丸方形  
カマド 北壁中央にあり、煙道・天井部は壊れ、袖石が残っていた。カマド付近に6個体の底部のない武藏甕が出土し煙道に使用したか。

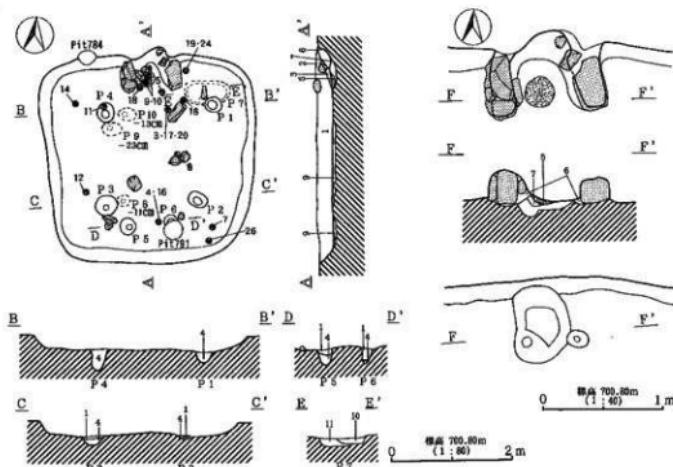
長軸方位 N-5°-W

残りの状態 住居跡の床面は顯著な貼り床ではなく、あまり締まった床ではなかった。

柱穴・他穴 主柱穴はP1~P4、出入り口のピットがP5-P6、床下から西の主柱穴の内側小ピットを検出。カマドの東床下より、長径36cm深さ14cmの穴あり。

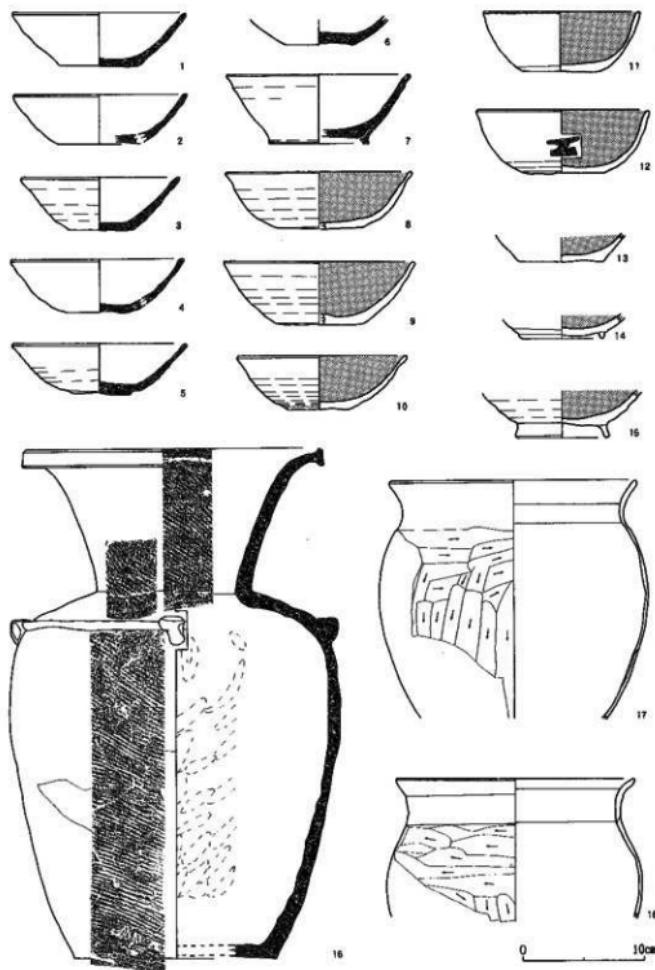
出土遺物 須恵器壺1・杯6・碗1、土師器杯5 (内1墨書「丁」?)・碗2・壺8・小型壺1  
大半が実測でき、残る破片は主に壺である。

時 期 平安時代、9c中頃。

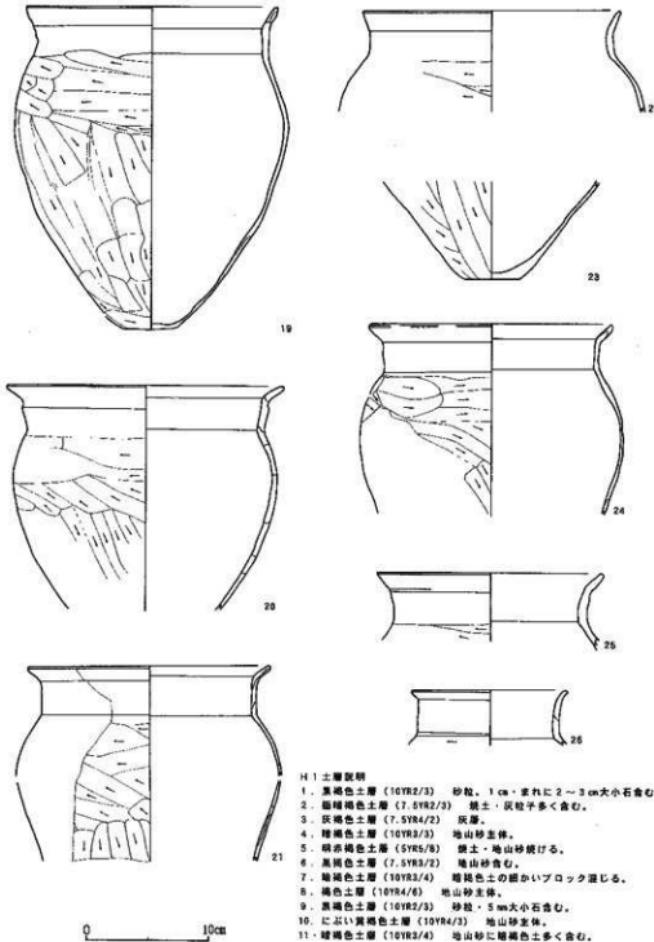


第6図 H1号住居跡

第4節 漢査の概要



第7図 H 1号住居跡



第8図 H1号住居跡

第1節 坑穴住居跡



写真13 H 1号住居跡土層堆積状況（東より）



写真14 H 1号住居跡遺物出土状況（南より）



写真15 H 1号住居跡カマド（南より）



写真16 H 1号住居跡遺物出土状況（東より）

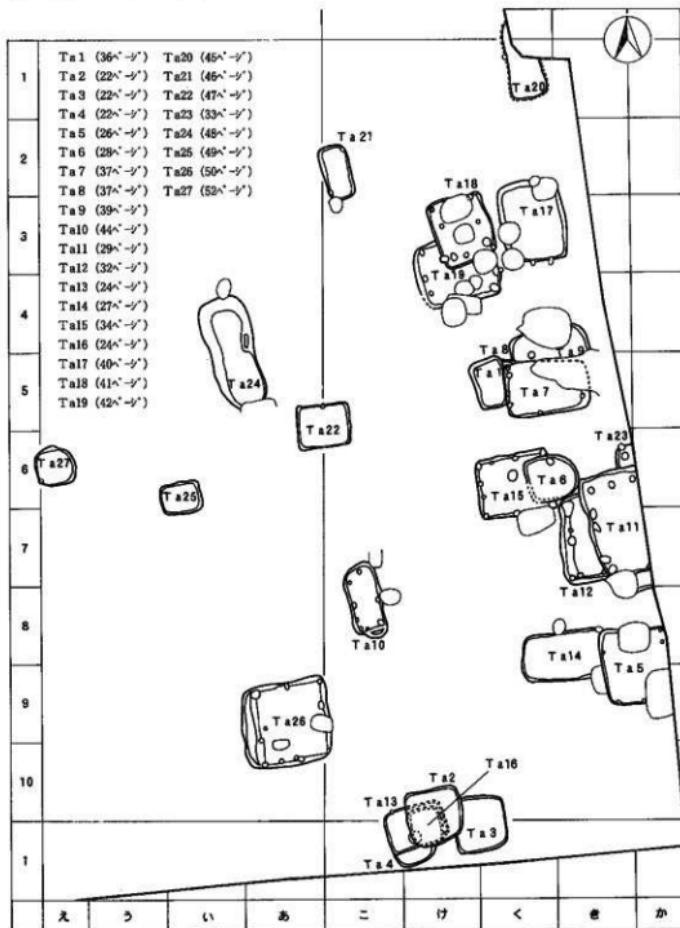


写真17 H 1号住居跡生活面（南より）



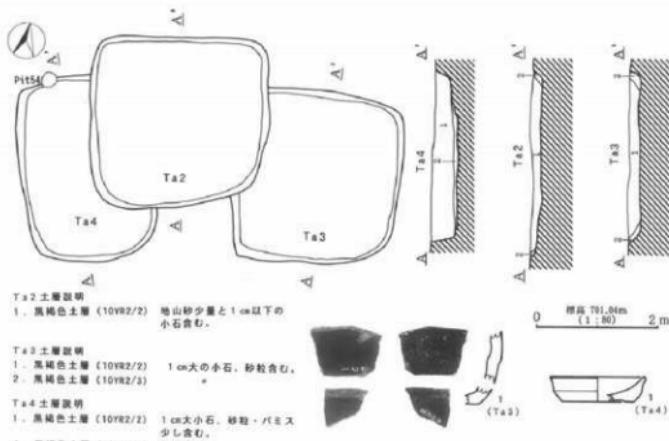
写真18 H 1号住居跡堀方（南より）

## 第2節 壁穴建物跡・壁穴状遺構



第9図 観音堂遺跡壁穴建物跡・壁穴状遺構全体図 (1:250)

1)・2)・3) Ta 2・3・4号堅穴状遺構



第10図 Ta 2・3・4 堅穴状遺構

Ta 2号堅穴状遺構

検出位置 B け10

規模・形態 264cm×276cm×25~45cm (南北×東西×深さ)・方形

火床 なし。

長軸方位 N - 11° - W

残りの状態 Ta 3・4・13・16堅穴状遺構を切る。

柱穴・付属施設 なし。

出土遺物 なし。

Ta 3号堅穴建物跡

検出位置 B く10

規模・形態 264cm×252cm×11~20cm (南北×東西×深さ)・方形

火床 なし。

長軸方位 N - 5° - W

残りの状態 Ta 2 に切られる。

柱穴・付属 なし。

出土遺物 1. 瓦質火鉢 (中世後半以降)、石獅 1

第2節 壺穴建物跡・壺穴状遺構

Ta 4号壺穴状遺構

検出位置 Cけ1　規模・形態 292cm×188cm×4～18cm (南北×東西×深さ)・長方形

火床 なし。　長軸方位 N-20°-W

残りの状態 Ta 2・P54に切られ、Ta13・16を切る。

柱穴・付属 なし。

出土遺物 1. かわらけ



写真19 Ta 2号壺穴状遺構土層堆積状態 (東より)

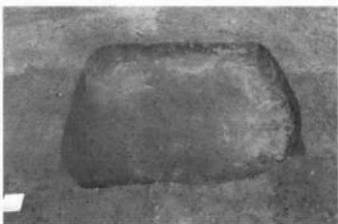


写真20 Ta 2号壺穴状遺構 (南より)



写真21 Ta 3号壺穴状遺構土層堆積状態 (南より)

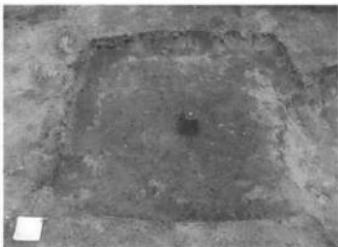


写真22 Ta 3号壺穴状遺構 (北より)

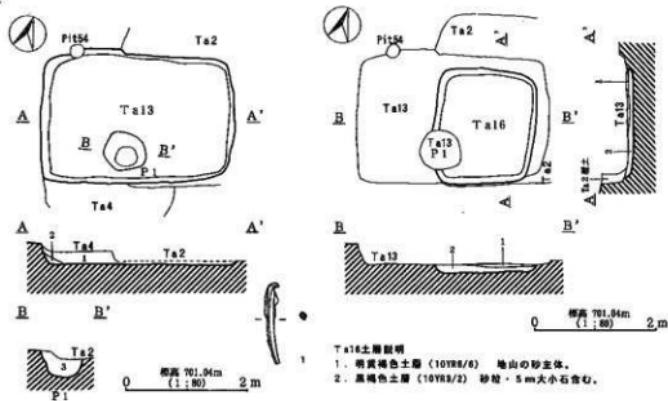


写真23 Ta 4号壺穴状遺構土層堆積状態 (東より)



写真24 Ta 4号壺穴状遺構 (西より)

4)・5) Ta13・16号竪穴状遺構



Ta13号竪穴状遺構

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・5mm大小石を少し含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山砂・5mm大小石を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・地山砂ブロック・バニス・1cm以下の小石少しつ含む。

第11図 Ta13・16号竪穴状遺構

Ta13号竪穴状遺構

検出位置 Bけ10

規模・形態 296cm×192cm×2~38cm (南北×東西×深さ)・長方形

火床 なし。

長軸方位 N-110°-W

残りの状態 Ta2・4に切られ、Ta16を切る。

柱穴・付属施設 南壁下中央に径68cm深さ44cmピットあり。

出土遺物 1. 角釘

Ta16号竪穴状遺構

検出位置 Bけ10

規模・形態 168cm×148cm×4~11cm (南北×東西×深さ)・方形

火床 なし。

長軸方位 N-15°-W

残りの状態 Ta2・4・13に切られる。 柱穴・付属施設 なし。 出土遺物 なし。

第2節 壁穴建物跡・壁穴状遺構



写真25 Ta13号壁穴状遺構（北より）

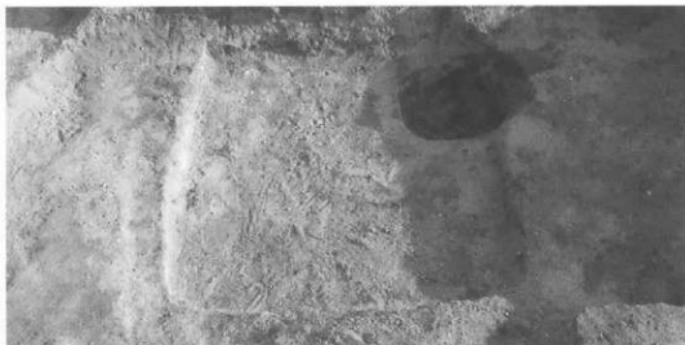
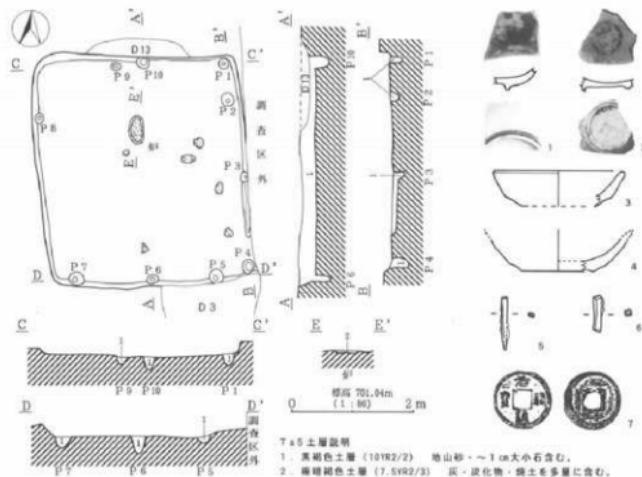


写真26 Ta16号壁穴状遺構（北より）



写真27 Ta13-16号壁穴状遺構上層堆積状態（西より）

6) Ta 5号堅穴建物跡



第12図 Ta 5 堅穴建物跡

Ta 5号堅穴建物跡

遺構検出位置 Bか9 規模・形態 360cm×336cm×10~28cm (南北×東西×深さ)・方形

火床 中央より北寄り。48cm×24cm の楕円形範囲に灰・焼土あり。長軸方位 N-11°-W

残りの状態 D 3・13に切られる。Ta14・D27を切る。

柱穴・付属施設 壁下に小ピットあり。出土遺物 1. 伊万里染付碗片 (18C)、2. 窓戸・美濃染付皿 (19C) (混入品?) 3・4. かわらけ 5・6. 角釘、7. 元祐通寶、貝 (ハマグリ)



写真28 Ta 5号堅穴状遺構上部堆積状態（西より）

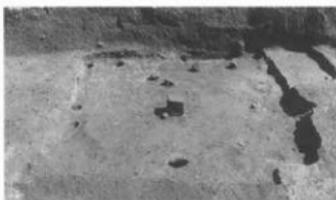
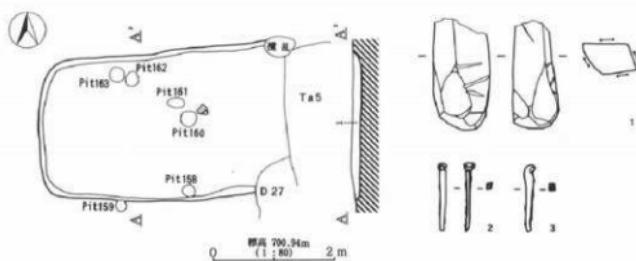


写真29 Ta 5号堅穴状遺構（西より）

## 7) Ta14号壺穴状遺構



Ta14号壺穴状遺構  
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 腐化物少し、砂粒、1cm以下の小石含む。

第13図 Ta14号壺穴状遺構

## Ta14号壺穴状遺構

検出位置 Bき8

規模・形態 400cm×236cm×3~14cm (南北×東西×深さ)・長方形

火床 なし 長軸方位 N-90°

残りの状態 Ta5・D27に切られる。単独ピットP158・160・161・162・163に切られる。  
柱穴・付属施設 なし。

出土遺物 1. 砥石(凝灰岩製) 2・3. 角釘2、羽口

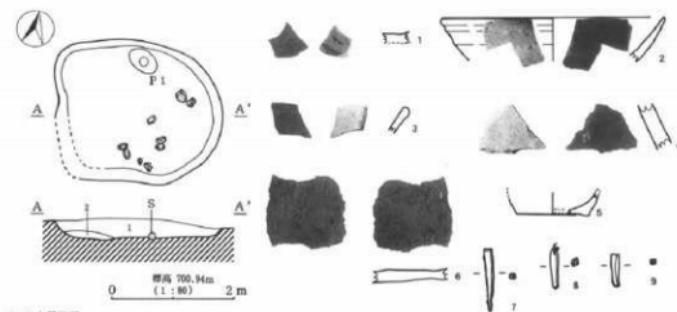


写真30 Ta14号壺穴状遺構の土層堆積状態 (西より)



写真31 Ta14号壺穴状遺構 (西より)

8) Ta 6号竪穴状遺構



Ta 6 土層説明  
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ~ 1 cm 小石、炭化物粒子含む。やや粘性あり。  
2. 黑褐色土層 (10YR2/2) 灰黒褐色 (10YR8/2) 粘土の塊ブロック多く含む。

第14図 Ta 6 竪穴状遺構

Ta 6号竪穴状遺構

検出位置 B き 6

規模・形態 228cm×272cm×9~28cm (南北×東西×深さ)・不整長方形

火床 なし。長軸方位 N-105°W

残りの状態 Ta15を切る。形態がつかみきれな $\lambda$ 。

柱穴・付属施設 なし。

出土遺物 1. 中国産青磁碗 (中世) 2. 古瀬戸灰釉平碗 (15C) 3. 山茶椀系捏鉢 (13C)

4. 常滑窯 (中世) 5. かわらけ 7~9角釘 6. 古瀬戸瓶子 (中世?)



写真32 Ta 6号竪穴状遺構土層堆積状態 (南より)



写真29 Ta 6号竪穴状遺構 (西より)

9)・10)・11) Ta11・12・23号壁穴建物跡

#### Ta11号壁穴建物跡

検出位置 Bき6 規模・形態 584cm×296cm×40~68cm (南北×東西×深さ)・方形?

火床 なし。 長軸方位 N-15°-W

残りの状態 Ta6・D5に切られる。Ta12を切る。東側調査区域外。消失家屋のため炭化材、茅状炭化物、焼土、灰が多量に残る。重複関係が多い。ことに南の二重の造構線はTa11と少し南にずれて他の壁穴状造構があるのか、入り口のテラスなのか明確でない。

柱穴・付属施設 P1~P10が伴う柱穴、P11~21は床下で検出され他の壁穴建物跡のピットか。

出土遺物 1. 青磁玉縁碗(中国13C) 2・3. 青磁連弁文碗(龍泉窯系15C前半~16C)

4. 古瀬戸灰釉瓶類(中世) 5. 瓦質擂鉢(在地、13C末~14C前半) 6. 常滑壺  
(中世)、7~11. かわらけ12. 土鍋13. 角釘、羽口1、硯1、

#### Ta12号壁穴状造構

検出位置 Bき7 規模・形態 420cm×256cm×26~51cm (南北×東西×深さ)・長方形

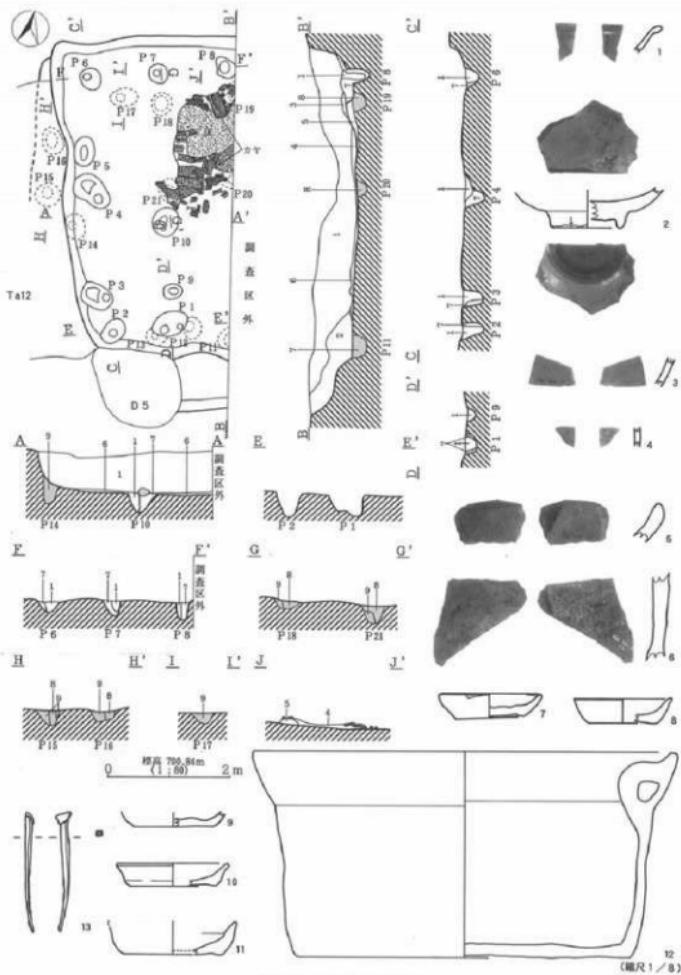
火床 なし。 長軸方位 N-14°-W 残りの状態 Ta11に西側を切られる。D50を切る。

柱穴・付属施設 9個のピットが壁下にめぐる。

出土遺物 1. 古瀬戸天目茶碗(15C前半) 2. かわらけ3. 古瀬戸瓶子(中世) 4. 瓦質擂鉢  
(在地13C末~14C前) 5. 古瀬戸灰釉鉢(15C後半)、羽口片、打製石斧、犬(歯・顎)  
貝(ハマグリ)



写真34 Ta11・12号壁穴建物跡(南より)



第15圖 Tall号墳穴建物跡

## 第2節 壁穴建物跡・壁穴状道構

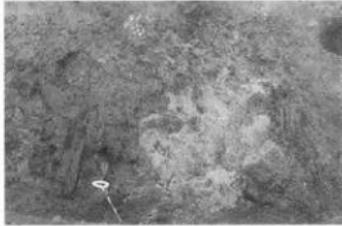


写真35 Ta11号壁穴建物跡灰化物出土状態（東より）

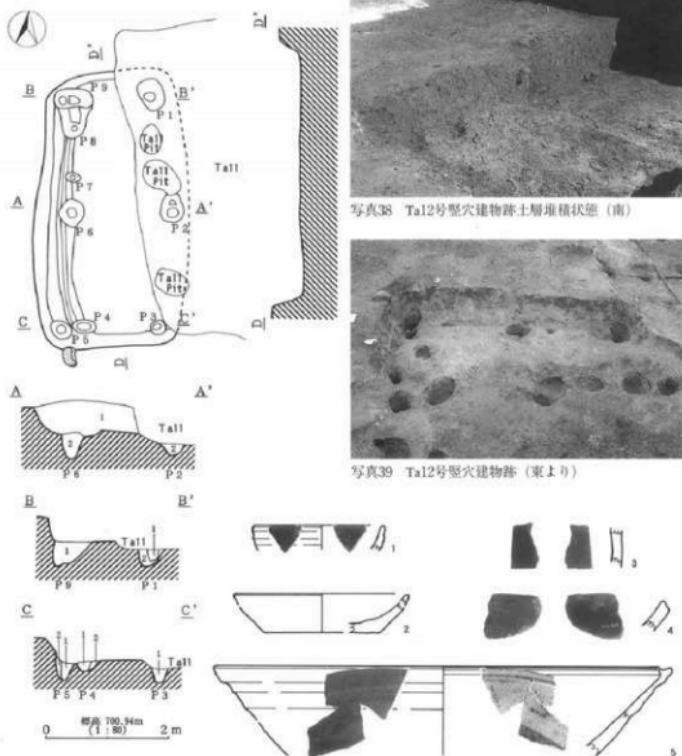
- Ta11土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂多量、炭化物・焼土粒子を含む。  
20cmの大粒の漂石所々にふくらむ。
  2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂、小石、炭化物を少々含む。
  3. 黒色層 炭化物層
  4. 淡黃褐色土層 (10YR4/2) 灰化に達土 ブロック少し含む。
  5. 黑褐色土層 (10YR2/2) 灰・炭多量に含む。
  6. 黑褐色土層 (10YR2/2) 貼り屎。やや緑まる。地山砂多く混じる。
  7. 結褐色土層 (10YR3/3) 地山砂ブロック主体。
  8. 黑褐色土層 (10YR2/3) 地山砂含む。
  9. 結褐色土層 (10YR3/3) 地山材主体。



写真36 Ta11-12号壁穴建物跡（西より）



写真37 Ta11-12号壁穴建物跡塗方（南上り）



Ta12土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) まれに1cm大的炭化物を含む。  
 ~2cm大的小石地山砂を含む。  
 地山砂ブロック主体。

第16図 Ta12号竖穴建物跡

## Ta23号壁穴建物跡

検出位置 Bき6 規模・形態 <456>cm × <88>cm × 48cm (南北×東西×深さ)・不明

火床 不明 長軸方位 N-10°-W

残りの状態 北東隅のみ残る。Ta11に切られる。東側調査区域外。柱穴・付属施設 壁下にピットあり。出土遺物 なし。

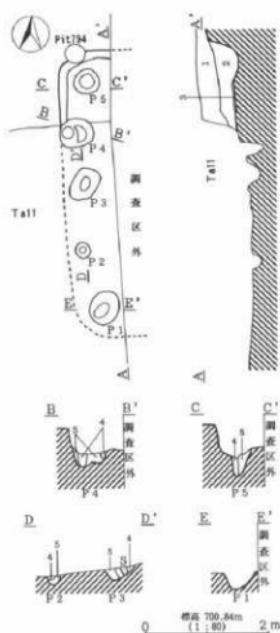


写真40 Ta23号壁穴建物跡（北より）



写真41 Ta23号壁穴建物跡（北より）

## Ta23号層剖面

- |                    |                    |                               |
|--------------------|--------------------|-------------------------------|
| 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) | 小石含む。              | 3. 細褐色土層 (10YR3/4) 脱り土、地山砂主体。 |
| 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) | 小石多く。5cm大の石もまれに含む。 | 4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱底。        |
|                    |                    | 5. 黒褐色土層 (10YR5/8) 地山砂主体。     |
|                    |                    | 地山砂多い。                        |

第17図 Ta23号壁穴建物跡

12) Ta15号竪穴建物跡

Ta15号竪穴建物跡

検出位置 B < 6 規模・形態 276cm×348cm×4~43cm (南北×東西×深さ)・長方形

火床 なし。長軸方位 N-103°-W

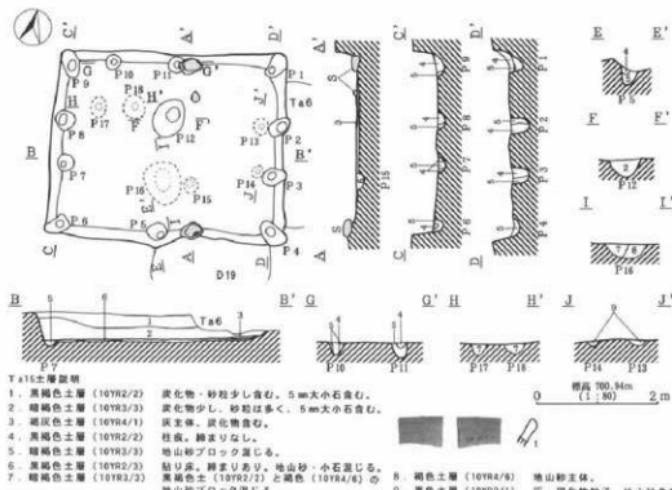
残りの状態 Ta6・D19に上面を切られる。床面は縮まる。

柱穴・付属施設 P 1~P 11壁柱穴、P 5・P 11の横には上面が扁平な石があり、礎石柱にした  
ようである。P 12は2層が入り、穴として使用か。床下ピットはP 13~18。

出土遺物 1. 山茶碗系捏鉢 (13C前半)、緑泥片岩小片



写真42 Ta15号竪穴建物跡  
土層堆積状態 (南より)



第18図 Ta15号竪穴建物跡

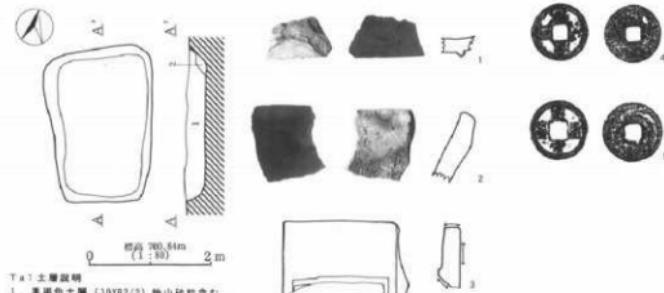
第2節 壁穴建物跡・壁穴状遺構



写真43 Ta15号壁穴建物跡（南より）



写真44 Ta15号壁穴建物跡脇方（西より）



Ta 7 土層剖面  
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂粒含む。  
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山砂多量に含む。

第19図 Ta 1号堅穴状遺構

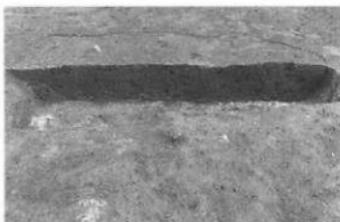


写真45 Ta 1号堅穴状遺構土層堆積状態（西より）

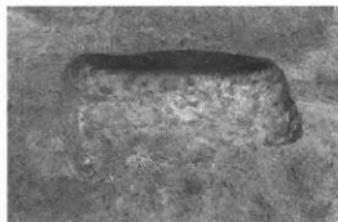


写真46 Ta 1号堅穴状遺構（西よし）

### Ta 1号堅穴状遺構

検出位置 B < 5 (調査区東側中央)

規模・形態 228cm×132cm×21~38cm (南北×東西×深さ)・長方形

火床 なし。

長軸方位 N-14° - W

残りの状態 Ta 7・8、D25を切る。

柱穴・付属施設 なし。

出土遺物 1. 灰釉陶器碗 2. 瓦質擂鉢 (在地13C末~14C前半) 3. 琺 (粘板岩製)

4・5. 判読不明銭・皇宋通寶、貝 (ハマグリ)

14)・15) Ta 7・8号壁穴建物跡

Ta 7号壁穴建物跡

検出位置 B<5 規模・形態 248cm×364cm×0~41cm (南北×東西×深さ)・長方形

火床 なし。 長軸方位 N-92°-W

残りの状態 北東に擾乱が入る。Ta 8・9を切る。

柱穴・付属施設 壁下に柱穴がめぐる。

出土遺物 1.古瀬戸灰釉瓶頸 (14~15C) 2.古瀬戸瓶子 (13C) 3.古瀬戸瓶子底 (中世)

4・5.かわらけ 6・7.角釘 8.開元通寶 3.淳化元寶・祥符元寶・皇宋通寶・○軍元

寶・元祐通寶・元○○寶・聖宗元寶 3.洪武通寶 2.貝 (クロアワビ・ハマグリ)

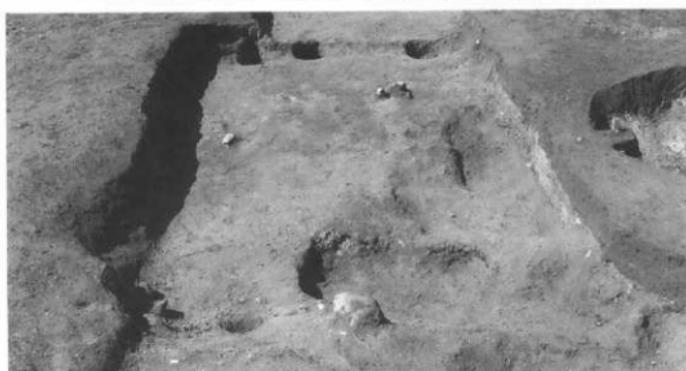


写真47 Ta 7号壁穴建物跡 (東より)

Ta 8号壁穴状遺構

検出位置 B<5

規模・形態 <64>cm×<42>cm×22~26cm

(南北×東西×深さ)・不明

火床 不明

長軸方位 -

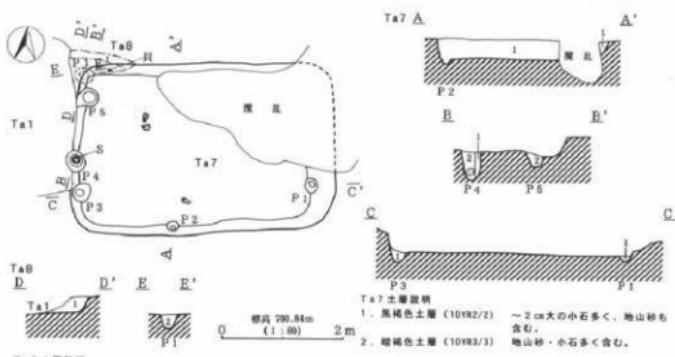
残りの状態 Ta 1・7に切られ一部残存。

柱穴・付属施設 壁下にピット 1

出土遺物 なし。



写真48 Ta 8号壁穴建物跡 (西より)

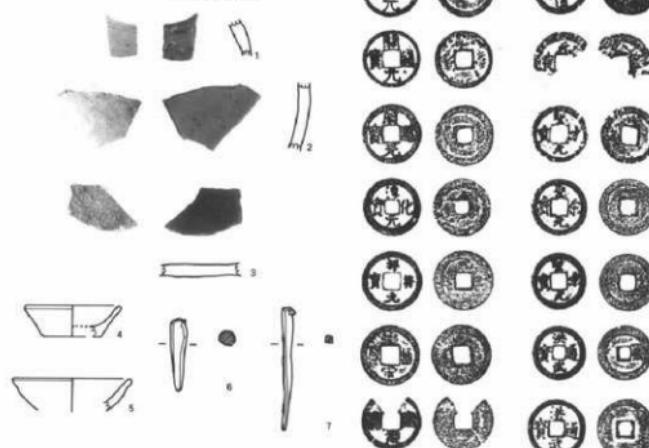


Ta 7 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 泥・炭化物粒子多量に含む。  
黒褐色土 (10YR2/3)・地山砂も含む。
2. 緙褐色土層 (10YR3/3) 地山砂・小石多く含む。

Ta 8 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 泥・炭化物粒子多量に含む。  
黒褐色土 (10YR2/3)・地山砂  
ブロックで積じる。



第20図 Ta 7・8号堅穴建物跡

第2節 壁穴建物跡・壁穴状遺構

16) Ta 9号壁穴状遺構

Ta 9号壁穴状遺構

検出位置 Bき4

規模・形態 <160>cm×388cm×7~20cm (南北×東西×深さ)・長方形?

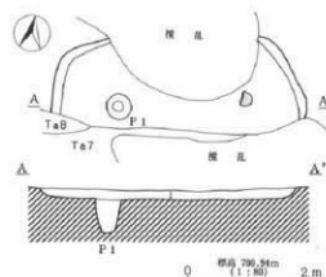
火床 不明

長軸方位 N-98°-W

残りの状態 Ta 7・8に切られる。北側擾乱により破壊。

柱穴・付属施設 西中央に柱穴あり。覆土は不明。

出土遺物 なし。



Ta 9号土層説明  
1 黒褐色土層 (1982/3) 砂粒・1cm以下の小石含む。

写真48 Ta 9号壁穴状遺構



写真49 Ta 9号壁穴状遺構土層堆積状態(南より)



写真50 Ta 9号壁穴状遺構(南より)

### 17) Ta17号竪穴状遺構

#### Ta17号竪穴状遺構

検出位置 B < 3 規模・形態 372cm×212cm×2~17cm (南北×東西×深さ)・隅丸長方形

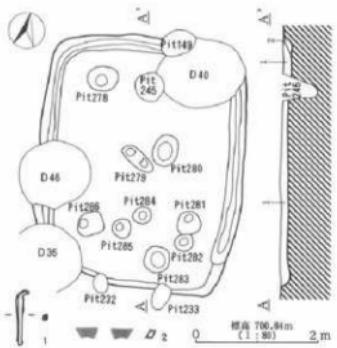
火床 なし。 長軸方位 N - 9° - W

残りの状態 D36・D40・D46、P149・P232・P233・P245に切られる。底面に輪まりなし。周溝が南壁を除いてめぐる。

柱穴・付属施設 P278~P286が底面より検出された。P278・P281・P285の覆土は黒褐色土

層 (10YR2/3) で異なる。他は Ta17の覆土と同質である。底面に貼り床がないことから、遺構に伴うものか否かは明らかでない。

出土遺物 1. 角釘 2. 青磁碗 (龍泉窯系、中世)



Ta17号竪穴状遺構  
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山移・小石・炭化物粒子含む。  
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭・炭化物粒子含む。

写真50 Ta17号竪穴状遺構

写真51 Ta17号竪穴状遺構土層堆積状態 (北より)



写真52 Ta17号竪穴状遺構 (東より)

## 18) Ta18号壁穴建物跡

Ta18号壁穴建物跡

検出位置 Bけ3・4

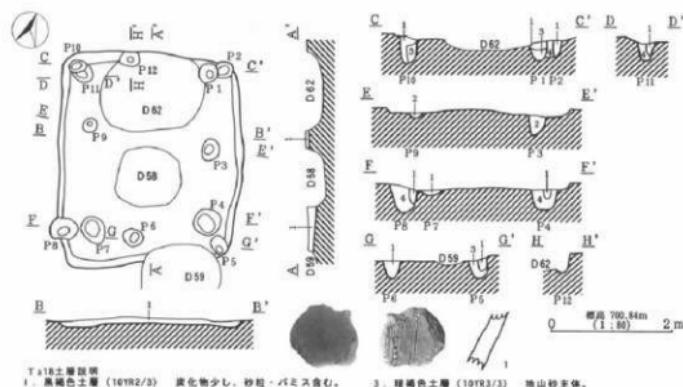
規模・形態 316cm×280cm×2~14cm (南北×東西×深さ)・長方形 火床 不明

長軸方位 N-14°-W

残りの状態 D58・D59・D62に切られる。Ta19を切る。

柱穴・付属施設 P1・P5・P7・P10が新しく、P2・P4・P8・P11が旧ピットで本造構に伴う。

出土遺物 1. 瓦質擂鉢 (在地13C末~14C)、磨石



第23図 Ta18号壁穴建物跡



写真53 Ta18号壁穴建物跡土層堆積状態 (南より)

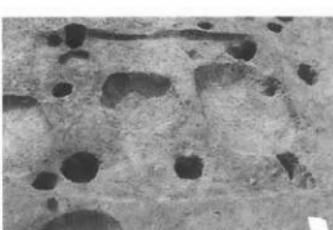


写真54 Ta18号壁穴建物跡 (東より)

19) Ta19号竪穴建物跡

Ta19号竪穴建物跡

検出位置 Bけ4

規模・形態 256cm×364cm×0~19cm (南北×東西×深さ)・長方形

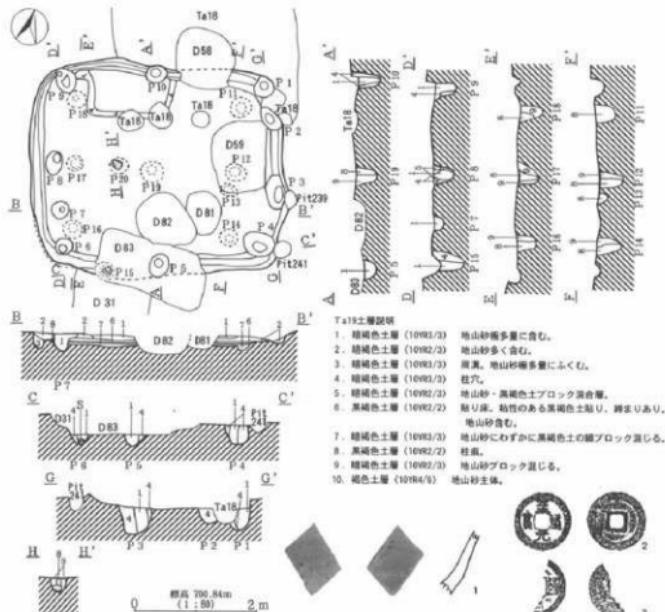
火床 なし。 長軸方位 N-105°-W

残りの状態 Ta18、D31・D58・D59・D81・D82・D83に切られる。

柱穴・付属施設 P 1 ~ P10が伴うピット。締まった床面があり、床下からも P11・P12の

ピットが検出。壁下には副溝もめぐる。

出土遺物 1. 山茶碗系捏鉢 (13C)、2. 至道元寶・○通〇〇



第24図 Ta19号竪穴建物跡

第2節 壁穴建物跡・壁穴状遺構



写真55 Ta19号壁穴建物跡（南より）

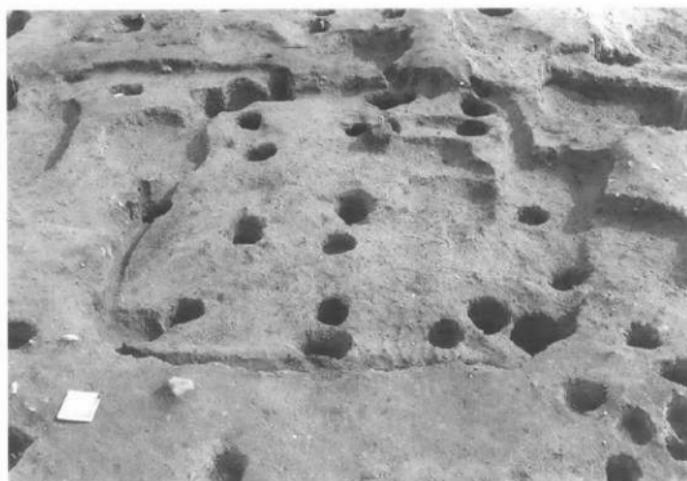


写真56 Ta19号壁穴建物跡裏方（西より）

20) Ta10号竪穴建物跡

検出位置 B c 7

規模・形態 380cm×140cm×68~108cm

隅丸長方形、南に入り口状の小テラスあり。

火床 なし。 長軸方位 N-11°W

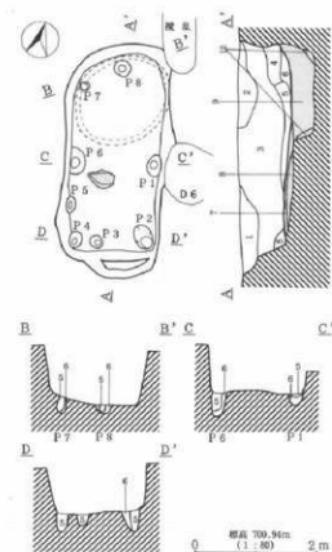
残りの状態 D 6に切られる。D18・51を切る。

貼り床され縁まる。北側の床下の径140cmの

円形の落ち込みは井戸跡か。人為埋土。

柱穴・付属施設 壁下にP 1~P 8の柱穴あり。

出土遺物 馬の歯



Ta10号層剖面

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
2. 黑褐色土層 (10YR2/2)
3. 黑褐色土層 (10YR2/3)
4. 黑褐色土層 (10YR2/1)
5. 黑褐色土層 (10YR2/2)



写真57 Ta10号竪穴建物跡（西より）



写真58 Ta10号竪穴建物跡（南より）



写真59 Ta10号竪穴建物跡駆方（北より）

6. にふい黄褐色土層 (10YR4/3) 地山砂主体に黒褐色土 (10YR2/3) 合む。
7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山砂・小石含み跡まる。床。
8. 黑褐色土層 (10YR3/3) 黒褐色土 (10YR2/3) ブロック毛所々含む。地山砂主体。
9. 黑褐色土層 (10YR2/3) 地山砂ブロック・P1火山灰ブロック・黒褐色土ブロックの混合層。上面跡まる。
10. 黑褐色土層 (10YR3/4) 地山砂埋理土層。

第25図 Ta10号型穴室建筑跡

## 21) Ta20号堅穴状遺構

## Ta20号堅穴状遺構

検出位置 B &lt; 1

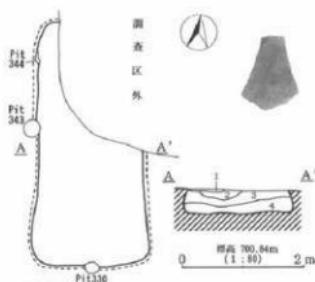
規模・形態 400cm×168cm×21~38cm (南北×東西×深さ)・長方形 火床 なし。

長軸方位 N = 5° - W

残りの状態 北東は区域外で未調査。P330・P343・P344に切られる。

柱穴・付属施設 なし。

出土遺物 1. 山茶碗系捏鉢 (13C前半)、貝 (アカニシ・ハマグリ)、骨



Ta20土層説明  
 1. 褐褐色土層 (1692/3) 漬化物少し。砂粒含む。  
 2. 褐褐色土層 (1692/3) 砂粒多く、1cm大小石含む。  
 3. 黒褐色土層 (1692/2) 漬化物少し。砂粒、5mm大小石含む。  
 4. 黑褐色土層 (1692/2)

第26図 Ta20号堅穴状遺構



写真60 Ta20号堅穴状遺構土層堆積状態 (南より)



写真61 Ta20号堅穴状遺構 (西より)

22) Ta21号堅穴状遺構

Ta21号堅穴状遺構

検出位置 B 2

規模・形態 260cm×108cm×14~27cm (南北×東西×深さ)・長方形

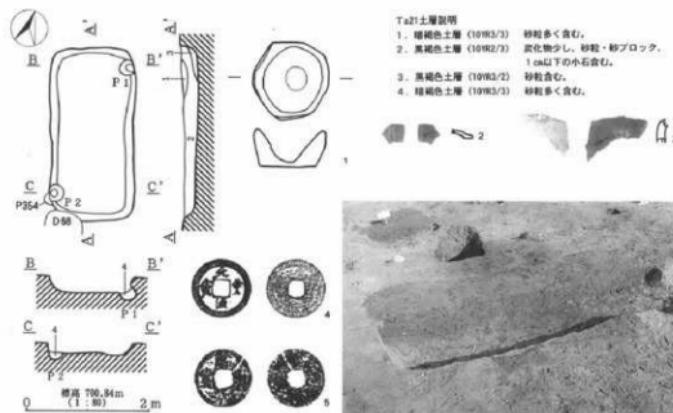
火床 なし。長軸方位 N-12°-W

残りの状態 D68、P354に切られる。

柱穴・付属施設 北東・南西にP1・P2

出土遺物 1. 磁石製凹石 2. 潜戸・美濃灰釉蓋(近世) 3. 古瀬戸灰釉鉢(14C後半~15C前半)

4・5. 元豊通寶・判読不明銭、犬(下顎)



第27図 Ta21号堅穴状遺構

写真62 Ta21号堅穴状遺構土層堆積状態(西より)



写真63 Ta21号堅穴状遺構(西より)

## 23) Ta22号壁穴状遺構

## Ta22号壁穴状遺構

検出位置 B こ 5

規模・形態 208cm × 244cm × 77~82cm (南北×東西×深さ)・長方形

火床 なし。

長軸方位 N-96°-W

残りの状態 重複関係なし。深い遺構。人為埋土。底面貼り床なく締まりなし。

柱穴・付属施設 北壁中央にP 1。

出土遺物 1. 角釘2. 皇宗通寶

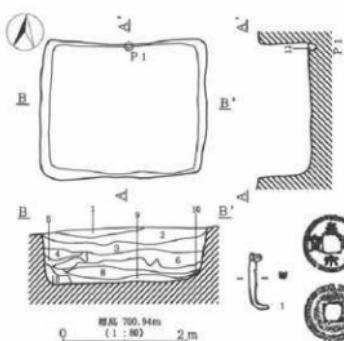


写真284 Ta22号壁穴状遺構



写真64 Ta22号壁穴状遺構層堆积状況(南より)

- Ta22号壁穴状遺構  
 1. 暗褐色土層 (10YR2/3) 砂粒、砂ブロック、5mm大小小石含む。  
 2. 黑褐色土層 (10YR2/3) 砂粒、5mm大小小石含む。  
 3. 黑褐色土層 (10YR3/2) 砂粒・1cm大以下小石含む。  
 4. にじむ黄褐色土層 (10YR4/3) 砂主体、1cm以下小石含む。  
 5. 黑褐色土層 (10YR2/3) 砂粒少し含む。  
 6. 黑褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。  
 7. 褐色土層 (10YR2/2) 砂粒、5mm以下的小石少し含む。  
 8. 黑褐色土層 (10YR2/2) 砂多く、1cm以下の小石含む。  
 9. 黄褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。  
 10. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂粒多く含む。

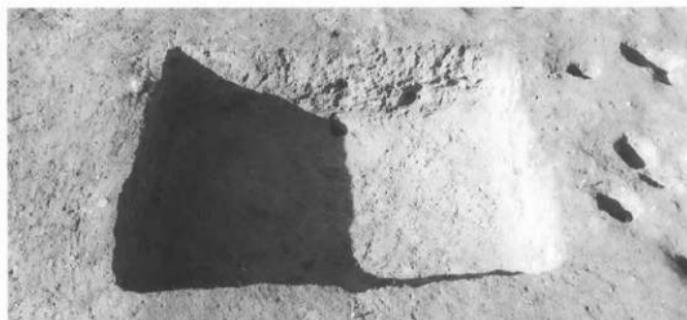


写真65 Ta22号壁穴状遺構(南より)

24) Ta24号竪穴状遺構

Ta24号竪穴状遺構

検出位置 E い4 規模 <488>cm×140cm×0~59cm (南北×東西×深さ)

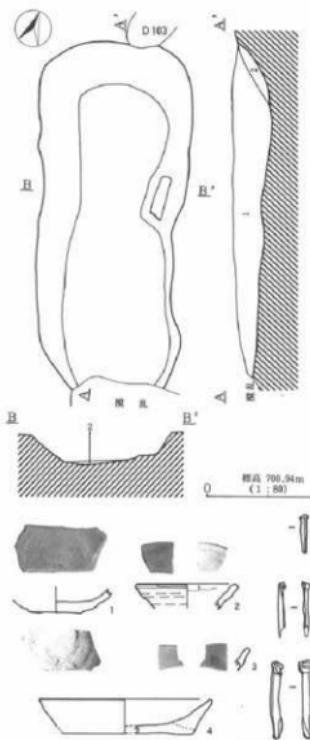
形態 四角長方形 火床 なし。長軸方位 N-15°-W

残りの状態 D103に切られ、南側擾乱により壊される。底面は北に深く南に浅い。

柱穴・付属施設 なし。

出土遺物 1・2. 古瀬戸綠釉小皿 (14C後半~15C前半) 3. 玉緑青磁碗 (15C前半)

4. かわらけ 5~7. 角釘



第24図 Ta24号竪穴状遺構

Ta24土層説明  
1. 高褐色土層 (10YR2/2) ~1cmの大の小石・地山砂少し含む。  
2. 高褐色土層 (10YR2/3) 地山砂ブロック多く含む。



写真66 Ta24号竪穴状遺構上層堆積状態 (北より)



写真67 Ta24号竪穴状遺構 (北より)

25) Ta25号壁穴状遺構

検出位置 Eい6

規模・形態 144cm×192cm×10~20cm (南北×東西×深さ)・長方形

火床 なし。 長軸方位 N-100°-W

残りの状態 底面は軟弱。 重複関係 なし。

柱穴・付属施設 なし。

出土遺物 なし。

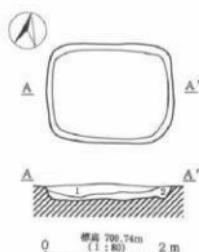


写真68 Ta25号壁穴状遺構土層堆積状態 (南より)

Ta25号壁穴状遺構  
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 漬化物・砂粒少し、1cm以下の小石を含む。  
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂粒、1cm以下の小石、砂ブロックを少し含む。

第30図 Ta25号壁穴状遺構



写真69 Ta25号壁穴状遺構 (西より)

26) Ta26号堅穴建物跡

Ta26号堅穴建物跡

検出位置 Eあ9

規模・形態 394cm×408cm×4~21cm (南北×東西×深さ)・方形

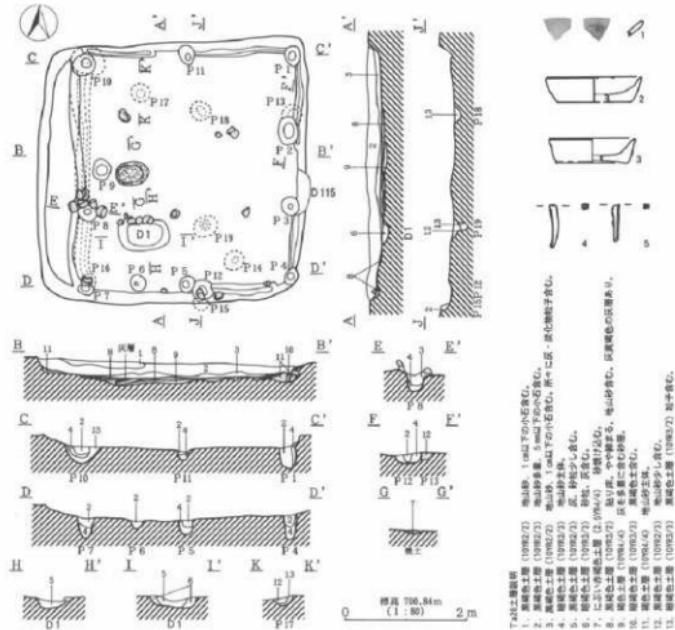
火床 西中央に長径52cm 短径36cm 厚さ5cmの焼土範囲あり。

長軸方位 N-98°-W

残りの状態 D115に切られる。貼り床があり、やや織まる。床下に灰層あり。

柱穴・付属施設 P1~12の柱穴が壁下をめぐる。床下よりP13~19のピットあり。P8の北に6個の川原石あり。南東に長径84cm 短径44cm 深さ16cm 隅丸方形の灰を含む土坑あり。北縁に川原石5個並ぶ。西端はテラス状を呈す。周溝あり。

出土遺物 1. 白磁小皿(中国、15C) 2・3. かわらけ4・5. 角釘



第31図 Ta26号堅穴建物跡

第2節 墓穴建物跡・墓穴状遺構



写真70 Ta26号墓穴建物跡上層堆積状態（北より）



写真71 Ta26号墓穴建物跡上層堆積状態（南より）



写真72 Ta26号墓穴建物跡（東より）



写真73 Ta26号墓穴建物跡掘方（南より）

27) Ta27号竪穴状遺構

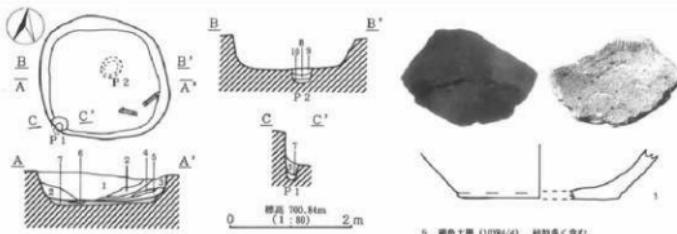
Ta27号竪穴状遺構

検出位置 E え 6 規模・形態 160cm×180cm×24~47cm (南北×東西×深さ)・隅丸方形

火床なし。長軸方位 N-95°-W 残りの状態 人為埋土。貼り床あり。重複関係なし。

柱穴・付属施設 南東隅にP 1、中央床下からP 2。

出土遺物 1. 瓦質擂鉢 (在地13C末~14C前半)・馬 (齒・骨)



Ta27号土層剖面

1. 黒褐色土層 (10982/3) 壓化物粒子を少し。砂粒、1cm以下の小石を含む。
2. 黑褐色土層 (10984/1) 砂主体。高密度土ブロック、1cm以下の小石含む。
3. 塗褐色土層 (10982/3) 砂粒・砂ブロック多く含む。
4. 黑褐色土層 (10984/6) 砂主体。
5. 黑褐色土層 (10984/4) 砂粒多く含む。
6. 黑褐色土層 (10982/2) 砂粒少しがむ。
7. 黑褐色土層 (10984/8) 砂主体。
8. 黑褐色土層 (10984/4) 砂多く、1cm以下の小石含む。
9. 塗褐色土層 (10982/4) 地山中に黑褐色土含む。
10. 黑褐色土層 (10982/2) 地山含む

第32図 Ta27号竪穴状遺構



写真74 Ta27号竪穴状遺構土層堆積状態 (南より)



写真75 Ta27号竪穴状遺構 (南より)



写真76 Ta27号竪穴状遺構出土状況 (西より)

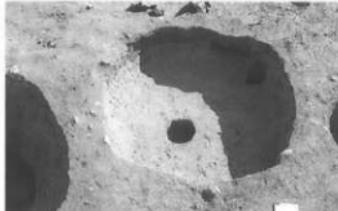
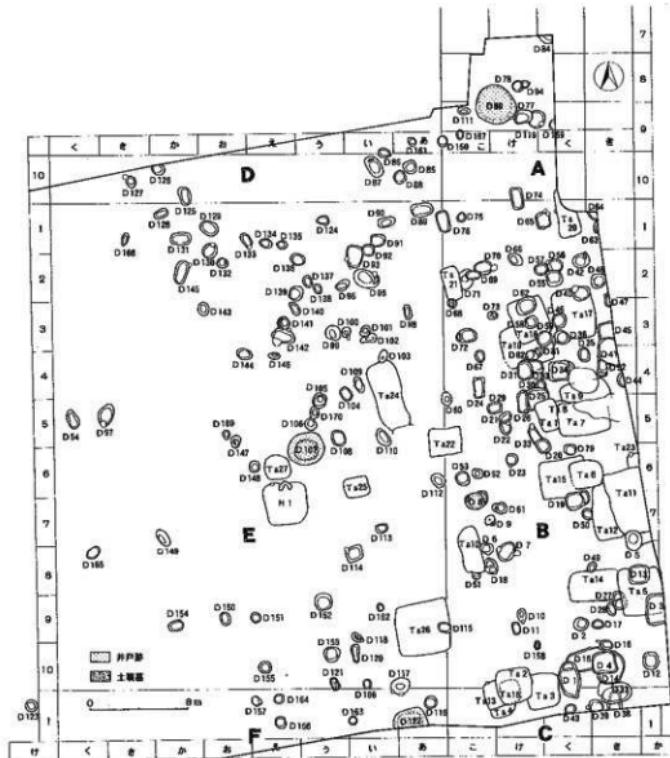


写真77 Ta27号竪穴状遺構場方 (北より)

### 第3節 井戸跡



第33圖 井戸跡遺構配図(1:400)

1) D 8号井戸跡

検出位置 Bご7

重複関係 なし。

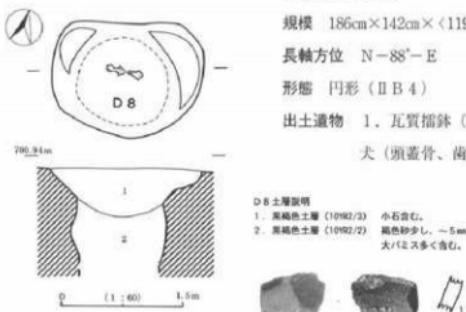
規模 186cm×142cm×<119>cm

長軸方位 N-88°-E

形態 円形 (II B 4)

出土遺物 1. 瓦質擂鉢 (在地13C末~14C前半)

犬 (頭蓋骨、歯)



第34図 D 8号井戸跡



写真78 D 8号井戸跡上層堆積状態（南より）

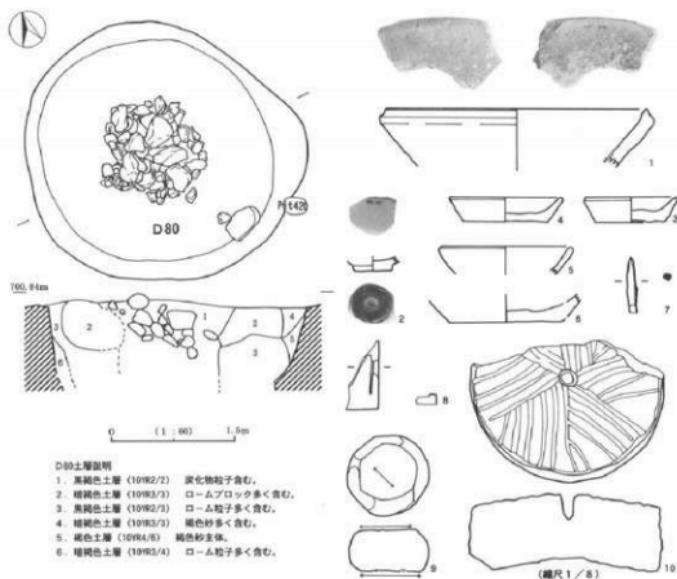


写真79 D 8号井戸跡獣骨（南より）



写真80  
D 8号井戸跡

## 2) D80号井戸跡



第35図 D80号井戸跡

検出位置 Aけ8 形態 II A 5

重複関係 P420に切られる。

規模 344cm × 340cm × &lt;100&gt;cm

長軸方位 N-72°-W

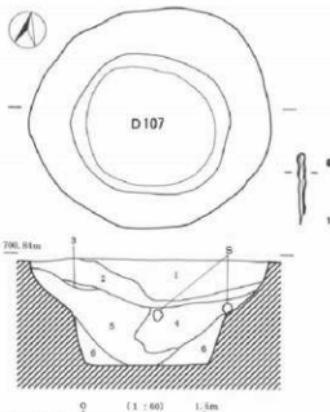
出土遺物

1. 瓦質留鉢 (在地13C末~14C前半)
2. 潟戸・美濃白磁皿 (19c以前)
- 3~6. かわらけ、7. 角釘
8. 砧 (粘板岩製)
9. 磨石 (軽石製)
10. 石臼 (下白、安山岩)、土鍋 2
- 貝 (アカニシ)・獸骨



写真31 D80号井戸跡 (南より)

3) D107号井戸跡



第36図 D107号井戸跡

検出位置 Eう6 形態 II A 5

重複関係 なし。

規模 292cm×270cm×(160)cm

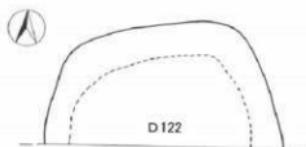
長軸範囲 N-78°-W

出土遺物 1. 角釘、須恵器甕・杯、

土師器碗・杯



## 4) D122号井戸跡



検出位置 Fあ1 形態 II A 5

重複関係 南半域は区域外。

規模 291cm×152cm×149cm

出土物 1. 青磁蓮弁文碗（13C後～14C前半）2. 青銅製煙管、かわらけ、須恵器壺、土師器壺

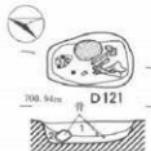


第37図 D122号井戸跡

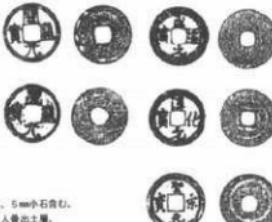


写真84 D122号井戸跡（北より）

## 第4節 土塚墓



D121号土塚説明  
1. 黒褐色土層 (D1992/2) 褐色砂少し。5mm小石含む。  
2. 黑褐色土層 (D1992/3) 砂粒含む。人骨出土地。



D121号土塚墓 (I D 3)

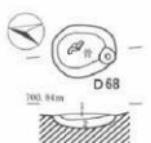
検出位置 E う 10

重複関係 -

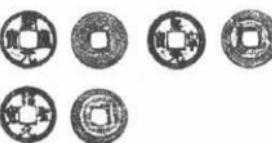
規模 105cm×67cm×28

長軸方位 N-25°-W

出土遺物 渡米銭、人骨



D68号土塚説明  
1. 黒褐色土層 (D1992/2) 褐色砂含む。  
2. 黒褐色土層 (D1992/3) 褐色砂含む。



D68号土塚墓 (II B 2)

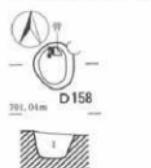
検出位置 B こ 3

重複関係 Ta21を切る。

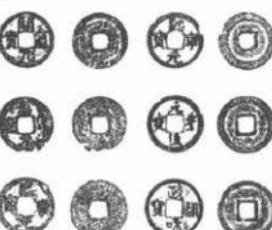
規模 78cm×66cm×15cm

長軸方位 N-17°-W

出土遺物 渡米銭、人頭骨



D158号土塚説明  
1. 黒褐色土層 (D1992/2) 褐色砂・褐色砂ブロック含む。  
褐色砂・褐色砂ブロック含む。



D158号土塚墓 (II B 1)

検出位置 B け 10

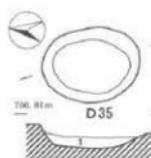
重複関係 P 37に切られる。

規模 57cm×48cm×32cm

長軸方位 N-20°-W

出土遺物 渡米銭、骨

●は渡米銭出土地点



D35号土塚説明  
1. 黒褐色土層 (D1992/2) 褐化物粒子わずかに含む。  
2. 黒褐色土層 (D1992/3) 褐色砂・褐色砂ブロック含む。  
褐色砂・小石含む。



D35号土塚墓 (II B 3)

検出位置 B く 4

重複関係 -

規模 120cm×92cm×24cm

長軸方位 N-5°-W

出土遺物 土版、獸骨

第4節 土塚墓



写真85 D121号土塚墓骨出土状態（西より）



写真86 D121号土塚墓（東より）



写真87 D35号土塚墓（北より）



写真88 D68号土塚墓土層堆積状態（西より）



写真89 D68号土塚墓（北より）



写真90 D68号土塚墓（北より）

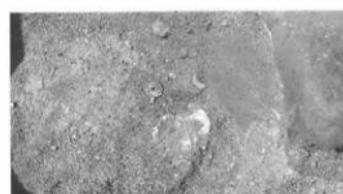


写真91 D158号土塚墓（東より）



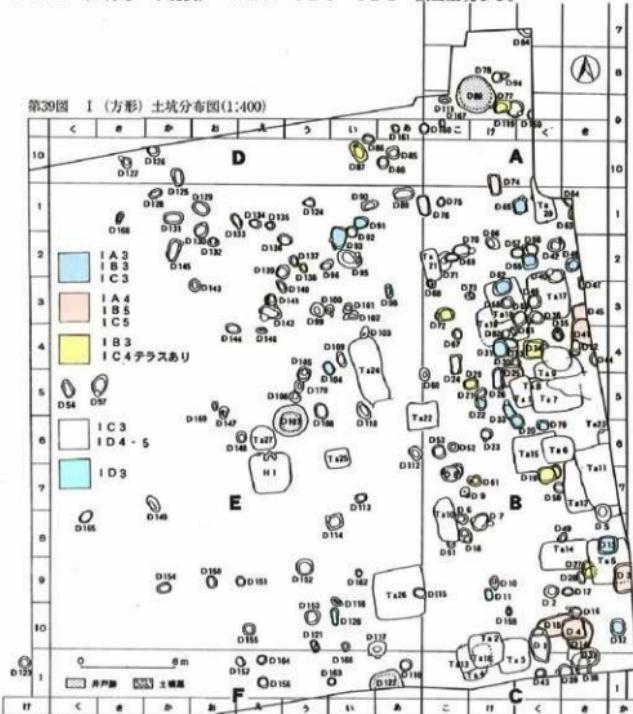
写真92 D158号土塚墓（東より）

## 第5節 土坑 (土坑の掲載ページは第10表 観音堂遺跡土坑一覧を参照)

本遺跡からは170基の土坑が検出され、使用目的が推測可能な土坑については井戸跡・土壙墓としてすでに記載した。残りの162基の土坑はその性格について形態・規模などで分類し共通性を見いだしたい。ここでは『北渠遺跡』(注1)の土坑の分類に沿って行ってみた。

形 態	長短軸値	規 模
I. 方形を基本形	A. 1 : 1 ~ 10 : 9 (1 ~ 0.9)	1. 長軸 65cm未満
II. 円形を基本形	B. 10 : 9 ~ 3 : 2 (0.9 ~ 1.5)	2. 長軸 65~90cm
III. 不整形	C. 3 : 2 ~ 2 : 1 (1.5 ~ 2) D. 2 : 1 ~ (2 ~)	3. 長軸 90~170cm 4. 長軸 170~250cm 5. 長軸 250cm

\* I A 1 (正方形・小規模)・I A 2・I B 1・I B 2 該当土坑なし。



第5節 土坑



写真93 D12号土坑土層堆積状態（西より）



写真94 D12号土坑（北より）



写真95 D13号土坑土層堆積状態（西より）



写真96 D13号土坑（南より）



写真97 D20号土坑（南より）



写真98 D20号土坑（西より）



写真99 D48号土坑（南より）



写真100 D48号土坑（北より）

1) IA3 (正方形・中規模) D12・D13・D20・D48・D55・D58・D65・D79・D114  
 (竪穴建物跡より新しい遺構。浅く底面が平坦)

- D12号土坑**  
 検出位置 Bか10  
 重複関係 P13に切られる。  
 規模 142cm×124cm×33cm  
 長軸方位 N-0°  
 出土遺物 1. 水渠通寶  
 2. かわらけ
- D13号土坑**  
 検出位置 Bき8  
 重複関係 Ta5を切る。  
 規模 143cm×146cm×18cm  
 長軸方位 —  
 出土遺物 1. かわらけ  
 染付椀 (時期不明)
- D20号土坑**  
 検出位置 Bけ6  
 重複関係 D33を切る。  
 規模 114cm×108cm×32cm  
 長軸方位 N-25°-W  
 出土遺物 1. ○蔵通寶 2. 高宋通寶  
 3. 圣宋元寶 かわらけ
- D48号土坑**  
 検出位置 Bき2  
 重複関係 —  
 規模 110cm×104cm×30cm  
 長軸方位 N-46°-E  
 出土遺物 1. 宋通元寶、2. 順序・美濃  
 皿 (近世?)、かわらけ 1

第40図 IA3土坑 (D12・D13・D20・D48)

第5節 土坑





写真101 D55号土坑跡出土状態（北より）



写真102 D55号土坑跡出土状態（北より）



写真103 D55号土坑（北より）



写真104 D58号土坑跡堆積状態（西より）



写真105 D65号土坑（南より）



写真106 D79号土坑（南より）



写真107 D114号土坑跡堆積状態（南より）

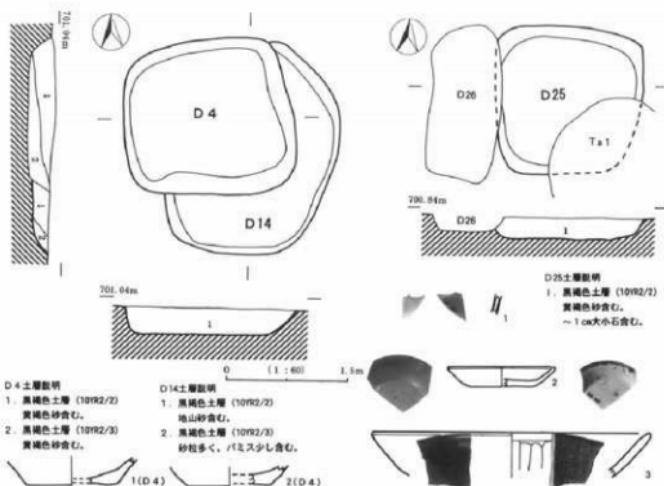


写真108 D114号土坑（南より）

第5節 土坑

2) IA 4 (正方形・大きい) D 4・D25 (竪穴状造構との差異なし。)

IB 5 (やや長方形、大きい) D14、IC 5 (長方形・大きい) D15 ( - )



第42図 IA4・IA5土坑 (D4・D14)

第43図 IA4土坑 (D25)

D 4号土坑

出土位置 Bき10

重複関係 D14・15を切る。

規模 206cm×191cm×32cm

長軸方位 N-17°-E

出土遺物 1・2. かわらけ、土鍋 1

D14号土坑 (IB5)

出土位置 Bき10

重複関係 D 4に切られる。

規模 266cm×(193)cm×24cm

長軸方位 N-30°-E 出土遺物 -

D 25号土坑

出土位置 Bけ5

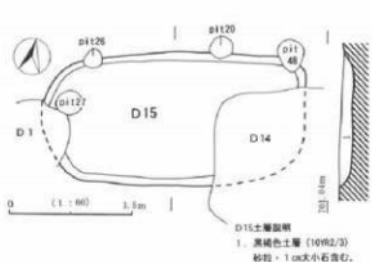
重複関係 Ta1とD26に切られる。D30を切る。

規模 184cm×173cm×27cm

長軸方位 N-17°-W

出土遺物

1. 青磁蓮弁文碗 (龍泉窯系13C後~14C前半)
2. 白磁小皿 (口禿げ、中国産、13C後半~14C前半)
3. 青磁鉢 (龍泉窯系14C末~15C前半)



D15号土坑 (I C 5)

検出位置 B < 10

重複関係 D 1・4・14、P20・26

・27・48に切られる。

規模 319cm×162cm×15cm

長軸方位 N-78°-E

出土遺物 -

第44図 I C 5 土坑 (D15)

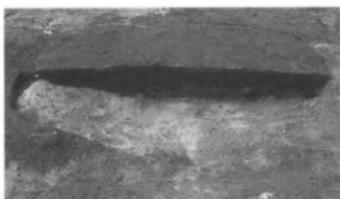


写真109 D4号土坑土層堆積状態 (南より)

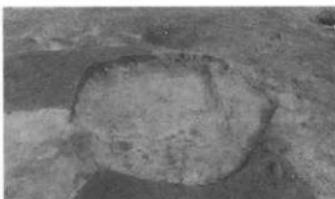


写真110 D4・D14号土坑 (南より)



写真111 D25号土坑土層堆積状態 (南より)



写真112 D25号土坑 (南より)



写真113 D15号土坑土層堆積状態 (西より)

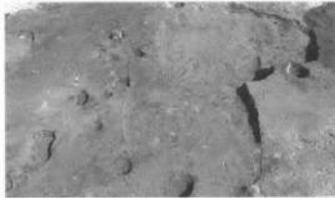
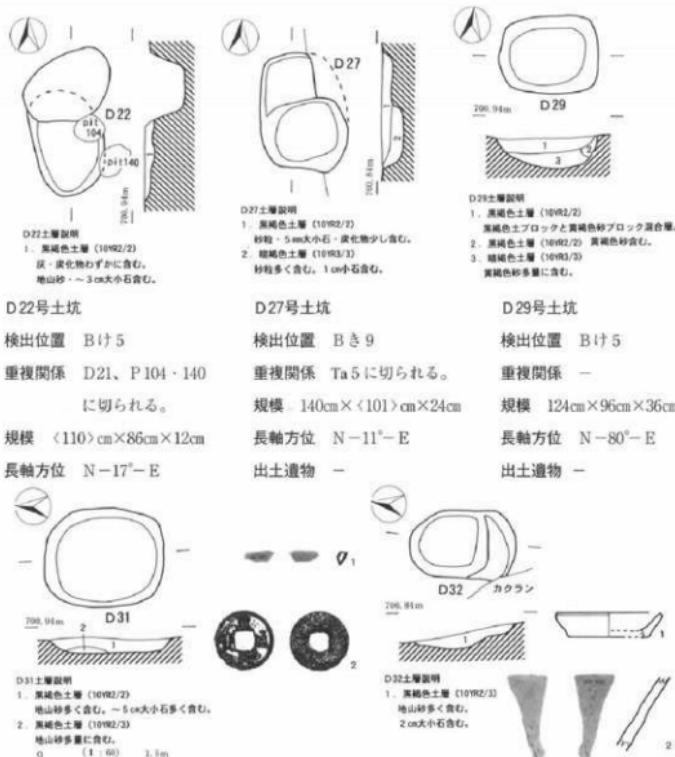


写真114 D15号土坑 (西より)

## 第5章 土坑

3) I B 3 (やや長方形・中規模) D22・D27・D29・D31・D32・D61・D77・D104・D115

I B 4 (やや長方形・大きい) D34・D62。(D22・D31・D104・D115・D62はI B 2に同類。他は深く、短辺に浅いテラスを持っている。)



第45図 I B 3 土坑 (D22・D27・D29・D31・D32)

D31号土坑

検出位置 Bけ4 重複関係 D83を切る。

規模 146cm × 122cm × 16cm 長軸方位 N-38°-W

出土遺物 1. 青磁碗 (中国産、中世),

2. ○○通寶、ウシ (唐)

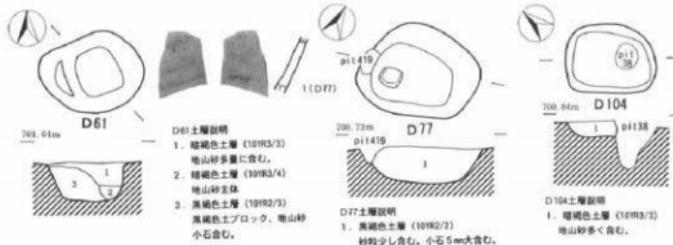
D32号土坑

検出位置 Bき4 重複関係 D41を切る。

規模 130cm × 84cm × 16cm

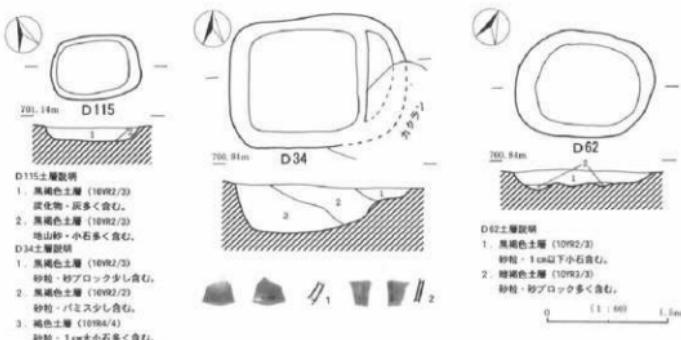
長軸方位 N-10°-W

出土遺物 1. かわらけ2, 山茶柄系捏鉢



遺構名	出土位置	重複関係	規模(長×短×深さ)	長軸方位	遺物
D61	B47	—	130×96×50(cm)	N-84°-W	—
D77	A49	D119を切る。	146×116×44	N-62°-E	あり
D104	E44	—	112×86×20	N-40°-W	—

D77出土遺物 山茶椀系捏鉢 (13C)



第46図 I B 3 土坑 (D61・D77・D104・D115) I B 4 土坑 (D34・D62)

I B 4

遺構名	出土位置	重複関係	規模(長×短×深さ)	長軸方位	遺物
D115	Eあ9	Ta26を切る。	110×78×21(cm)	N-70°-W	—
D62	Bけ3	Ta18を切る。	172×160×21	N-64°-E	あり

D62出土遺物 かわらけ、すり面のある黒曜石、ネズミ (下顎)

第5節 土坑

D34号土坑（IB4）

規模 216cm×160cm×57cm 長軸方位 N-90°-W

出土遺物 1. 青磁蓮弁文小鉢？（龍泉窯系、13C後半～14C前半）2. 青磁蓮弁文碗（龍泉窯系、13C）、古瀬戸灰釉おろし皿（14C後半、D67と接合）



写真115 D22号土坑土層堆積状態（西より）



写真116 D22号土坑（西より）



写真117 D27号土坑土層堆積状態（東より）



写真118 D27号土坑（東より）



写真119 D29号土坑土層堆積状態（南より）

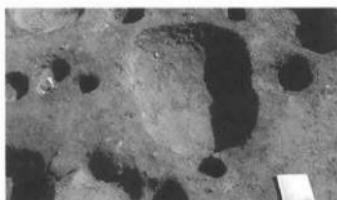


写真120 D29号土坑（西より）



写真121 D31号土坑上層堆積状態（東より）



写真122 D31号土坑（西より）



写真123 D32号土坑上層堆積状態（西より）

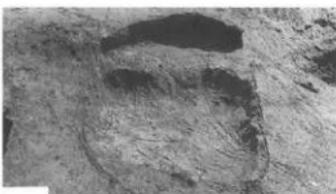


写真124 D32号土坑（北より）



写真125 D61号土坑上層堆積状態（西より）

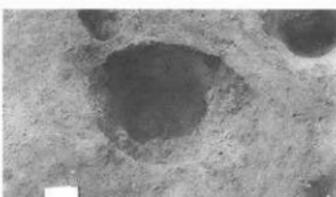


写真126 D61号土坑（北より）



写真127 D77号土坑上層堆積状態（南より）



写真128 D77号土坑（北より）

第5節 土坑



写真129 D104号土坑土層堆積状態（東より）



写真130 D104号土坑（北より）



写真131 D115号土坑土層堆積状態（南より）



写真132 D115号土坑（南より）



写真133 D34号土坑土層堆積状態（南より）



写真134 D34号土坑（北より）

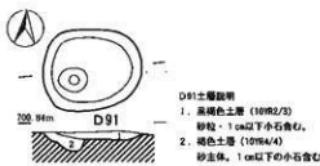
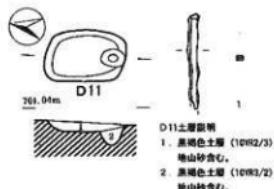


写真135 D62号土坑土層堆積状態（南より）



写真136 D62号土坑（北より）

4) IC 3 (長方形・中規模) 浅く底面が平坦 IA 3 と同類。D11・D91  
 IC 4 (長方形・大きい) D33・D93



#### D11号土坑

検出位置 B け 9

重複関係 -

規模 100cm × 60cm × 12cm

長軸方位 N-10°-W

出土遺物 1. 角釘、土第 1

#### D91号土坑

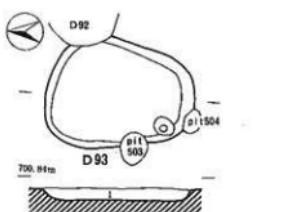
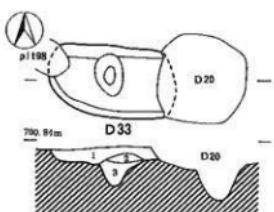
検出位置 E い 1

重複関係 -

規模 124cm × 99cm × 9cm

長軸方位 N-58°-E

出土遺物 -



第47図 IC 3 (D11・D91) IC 4 (D33・D93)

#### D33号土坑 (IC 3)

検出位置 B け 5

重複関係 D20、P98に切られる。

規模 140cm × 88cm × 21cm

長軸方位 N-37°-W

出土遺物 -

#### D93号土坑 (IC 4)

検出位置 E い 2

重複関係 D92に切られる。

規模 184cm × 140cm × 17cm

長軸方位 N-1°-W

出土遺物 鉄滓 1

第5節 土坑



写真137 D11号土坑土層堆積状態（西より）



写真138 D11号土坑（東より）



写真139 D91号土坑土層堆積状態（南より）



写真140 D91号土坑（西より）



写真141 D33号土坑土層堆積状態（西より）



写真142 D33号土坑（北より）

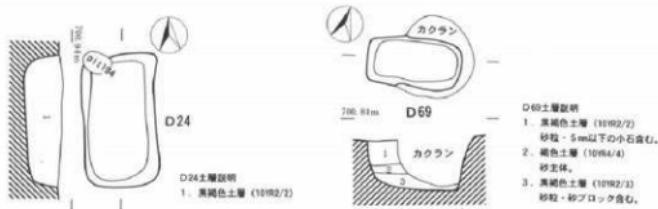


写真143 D93号土坑土層堆積状態（西より）



写真144 D93号土坑（西より）

I C 3 (長方形、大きい) 深さのあるもの



D 24号土坑

検出位置 B c 4 重複関係 P 194に切られる。

規模 166cm×88cm×42cm

長軸方位 N-0°

出土遺物 かわらけ 1、土鍋 1、貝 (ハマグリ)

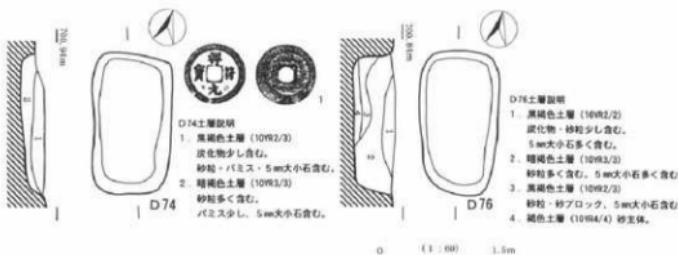
D 69号土坑

検出位置 B c 2 重複関係 -

規模 <116> cm×60cm×56cm

長軸方位 N-77°-E

出土遺物 -



第48図 I C 3 土坑 (D24・D69・D74・D76)

D 74号土坑

検出位置 A け10

重複関係 -

規模 172cm×92cm×27cm

長軸方位 N-11°-W

出土遺物 1. 神符元寶、土鍋 3、貝 (ハマグリ)

D 76号土坑

検出位置 B c 1

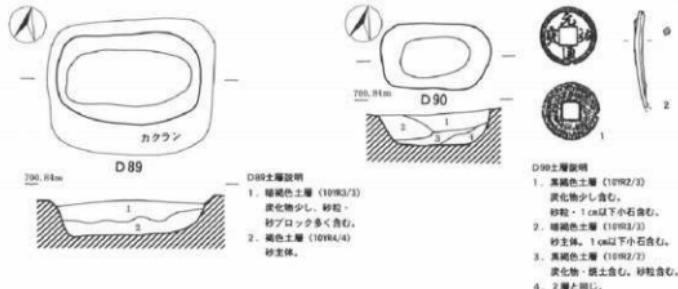
重複関係 -

規模 176cm×96cm×52cm

長軸方位 N-10°-E

出土遺物 -

第5節 土坑



第49図 I C 3号土坑 (D89- D90- D125- D131)

D125号土坑 検出位置 Eか1 重複関係 - 規模 150cm×88cm×31cm 長軸方位 N-20°-W 出土遺物 -	D131号土坑 検出位置 Eか1 重複関係 - 規模 164cm×92cm×36cm 長軸方位 N-90° 出土遺物 -
D125土層説明 1. 黒褐色土層 (10m/2) 砂粒・ハニス・ 5mm大小石少し含む。 2. 茶褐色土層 (10m/2) ハニス・砂粒含む。	D131土層説明 1. 黒褐色土層 (10m/2) ハニス・砂粒少し含む。 2. ぶい茶褐色土層 (10m/4) ハニス・砂粒含む。



写真145 D24号土坑土層堆積状態（北より）



写真146 D24号土坑（西より）



写真147 D69号土坑土層堆積状態（南より）



写真148 D69号土坑（西より）



写真149 D74号土坑土層堆積状態（東より）



写真150 D74号土坑（西より）



写真151 D76号土坑土層堆積状態（西より）



写真152 D76号土坑（西より）

第5節 土坑



写真153 D89号土坑土層堆積状態（南より）



写真154 D89号土坑（南より）



写真155 D90号土坑上層堆積状態（南より）



写真156 D90号土坑（西より）



写真157 D125号土坑土層堆積状態（東より）



写真158 D125号土坑（東より）

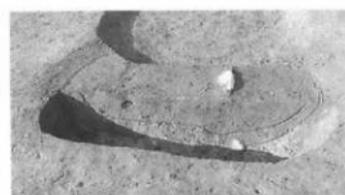
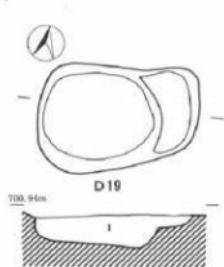


写真159 D131号土坑土層堆積状態（南より）

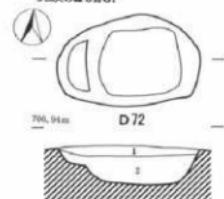


写真160 D131号土坑（北より）

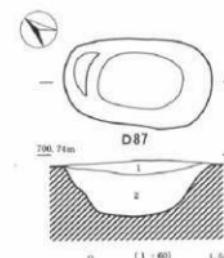
I C 4 (長方形・大きい) テラスあり、梢円に近い。D19・D72・D87



D19土壠説明  
1. 黒褐色土壠 (10YR2/2)  
地山砂多く、~1cm大小石含む。  
5cm大の礫も含む。



D72土壠説明  
1. 黑褐色土壠 (10YR2/2)  
炭化物少し含む。  
砂粒・5mm以下小石含む。  
2. 緑褐色土壠 (10YRA/3)  
砂粒・砂ブロック含む。  
2~3cm大小石含む。



D87土壠説明  
1. 黑褐色土壠 (10YR2/3)  
砂粒・5mm以下小石・バミス含む。  
2. 黑褐色土壠 (10YR2/2)  
砂粒・炭化物・1cm以下的小石  
少し含む。



#### D19号土坑

検出位置 B < 7  
重複関係 Ta15を切る。  
規模 196cm×122cm×42cm  
長軸方位 N-18°-W  
出土遺物  
1~3. かわらけ  
4. 瓦質擂鉢 (13C末~  
14C前半)  
5. 角釘、土鍋 3

#### D72号土坑

検出位置 B ≈ 3  
重複関係 —  
規模 172cm×110cm×48cm  
長軸方位 N-85°-E  
出土遺物 —



#### D87号土坑

検出位置 D ≈ 10  
重複関係 —  
規模 182cm×104cm×67cm  
長軸方位 N-37°-W  
出土遺物  
1. 青磁蓮弁文碗 (13C)  
2. 山茶楓系捏鉢 (13C)  
3. 四凹 (輕石製)  
かわらけ 3、土鍋 1  
貝 (アカニシ)

第50図 I C 4 土坑 (D19・D72・D87)

第5節 土坑



写真161 D19号土坑土層堆積状態（南より）



写真162 D19号土坑（東より）



写真163 D72号土坑土層堆積状態（南より）



写真164 D72号土坑（南より）



写真165 D87号土坑土層堆積状態（西より）

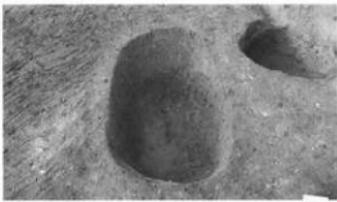
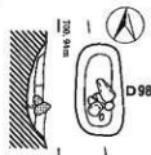


写真166 D87号土坑（南より）

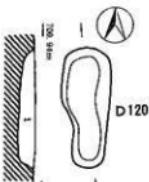


写真167 D87号土坑具出土状況（北より）

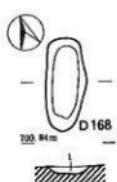
6) I D 3 · 4 · 5 (細長い長方形、中~大)



D98号土坑 (I D 3)  
1. 黒褐色土層 (10W2/2)  
砂粒・バニス 5mm大小石含む。  
2. 塗褐色土層 (10W3/3)  
砂粒・砂ブロック多量に含む。



D120号土坑 (I D 4)  
1. 黒褐色土層 (10W2/3)  
砂粒・砂ブロック含む。  
5mm大小石含む。



D168号土坑 (I D 5)  
1. 黒褐色土層 (10W2/2)  
バニス・5mm大小石含む。  
2. 黑褐色土層 (10W2/3)  
砂粒・バニス・5mm大小石含む。

D98号土坑 (I D 3)

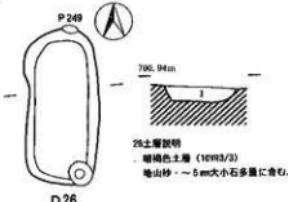
検出位置 Eあ3

重複関係 -

規模 104cm×52cm×26cm

長軸方位 N-10°-W

出土遺物 -



D120号土坑 (I D 3)

検出位置 Eい10

重複関係 -

規模 146cm×56cm×21cm

長軸方位 N-3°-W

出土遺物 -

D168号土坑 (I D 5)

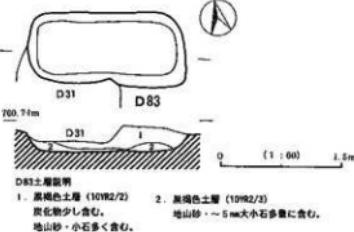
検出位置 Eき1

重複関係 -

規模 114cm×50cm×9cm

長軸方位 N-21°-E

出土遺物 -



第51図 I D3土坑 (D98·D120·D168) · I D4土坑 (D83) · I D5土坑 (D26)

D26号土坑 (I D 5)

検出位置 Bけ5

重複関係 P249に切られる。

規模 254cm×90cm×18cm

長軸方位 N-0°

出土遺物 -

D83号土坑 (I D 4)

検出位置 Bけ4

長複関係 Ta19を切り、D31に切られる。

規模 194cm×80cm×30cm

長軸方位 N-85°-W

出土遺物 貝 (ハマグリ)

第5節 土坑



写真168 D98号土坑土層堆積状態（西より）



写真169 D98号土坑（北より）



写真170 D120号土坑土層堆積状態（西より）



写真171 D120号土坑（西より）



写真172 D26号土坑土層堆積状態（南より）



写真173 D26号土坑（西より）



写真174 D83号土坑土層堆積状態（南より）



写真175 D83号土坑（北より）

II A 2 (円形、小さい) 底面がU字状と平坦なものがある。

遺構名	出土位置	重複関係	規模(長×短×深さ)	長軸方位	遺物
D51	Bご8	Tal0に切られる。	66×58×36(cm)	N-44°-W	-
D52	Bご6	P271に切られる。	84×81×32	N-61°-E	-
D75	Bご1	-	72×70×21	N-0°	-
D100	Eう3	P511を切る。	81×74×50	N-80°-E	-
D113	Eい7	-	92×82×19	N-66°-E	疊7個出土
D148	Eえ6	-	90×90×42	-	-
D151	Eえ9	-	87×72×17	N-68°-W	-
D132	Eお2	P675を切る。	87×81×24	N-65°-W	疊3個出土
D156	Fえ1	-	90×90×12	-	-
D160	Aご9	-	86×80×10	N-10°-E	-
D163	Fい1	-	88×80×15	N-2°-E	-
D164	Fえ1	-	80×72×12	N-80°-E	-
D166	Eい10	-	74×68×16	N-28°-W	疊1個出土
D167	Aご9	-	70×64×24	N-10°-E	々
D127	Dき10	P652に切られる。	81×81×75	-	土器1



写真176 D51号土坑土層堆積状態 (南より)



写真177 D51号土坑 (南より)

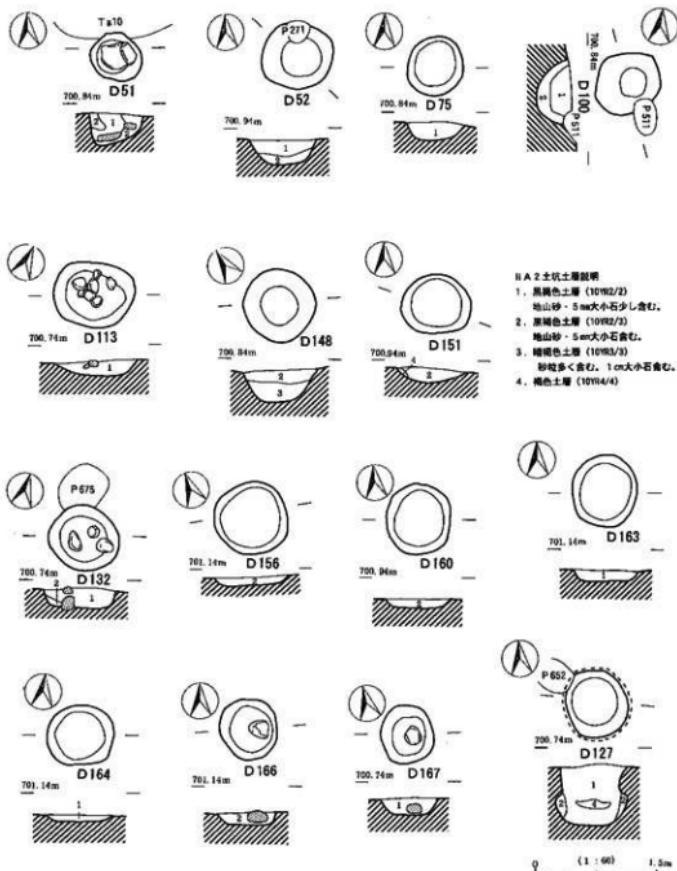


写真178 D52号土坑土層堆積状態 (西より)



写真179 D52号土坑 (北より)

第5節 上坑



第52図 II A2土坑 (D51-D52-D75-D100-D55-D113-D127

• D132-D148-D151-D156-D160-D161-D164-D166-D167)



写真180 D75号土坑土層堆積状態（南より）

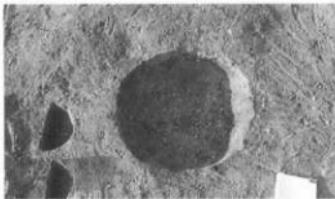


写真181 D75号土坑（南より）



写真182 D100号土坑土層堆積状態（西より）



写真183 D100号土坑（北より）



写真184 D113号土坑土層堆積状態（南より）



写真185 D113号土坑（西より）



写真186 D148号土坑土層堆積状態（南より）



写真187 D148号土坑（西より）

第5節 土坑



写真188 D151号土坑土層堆積状態（南より）



写真189 D151号土坑（西より）



写真190 D132号土坑土層堆積状態（南より）

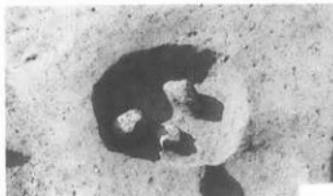


写真191 D132号土坑（北より）



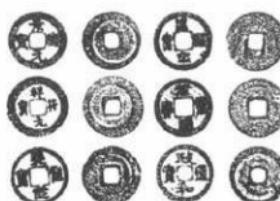
写真192 D156号土坑土層堆積状態（南より）



写真193 D156号土坑（西より）

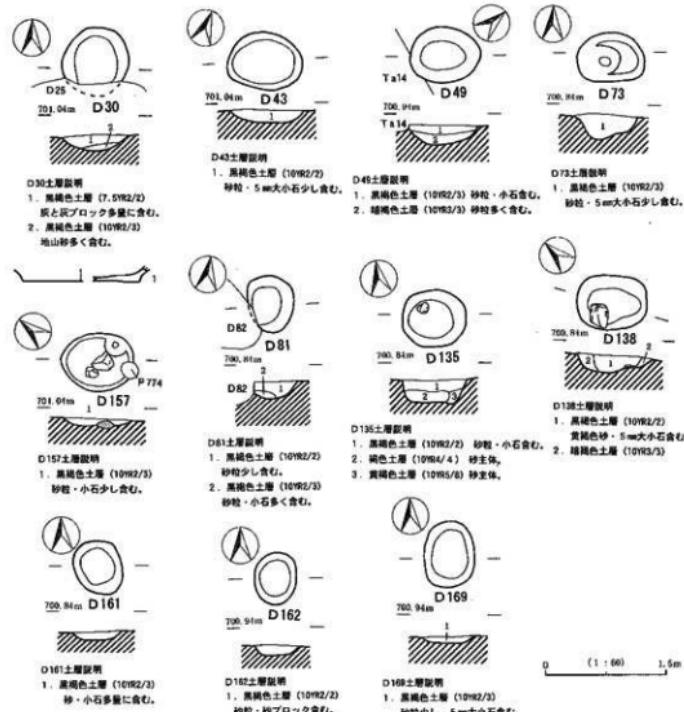


写真194 D127号土坑土層堆積状態（南より）



D162号土坑出土波来錢拓影図

II B 2 (やや椭円、小さい)



第53図 II B 2 土坑 (D30・D43・D49・D73・D81・D135・D138・D157・D160・D161)

遺構名	出土位置	重複関係	規模(長×短×深さ)	長軸方位	遺物
D30	B < 4	D25に切られる。	81×(67)×22(cm)	—	かわらけ
D43	C < 4	—	89×70×15	N-60°-E	—
D49	B き 8	Ta14に切られる。	88×70×24	N-18°-E	—
D73	B け 3	—	84×60×49	N-89°-E	—
D81	B け 4	D82に切られる。	70×54×21	N-13°-W	獸骨
D135	E え 1	—	80×70×27	N-82°-W	肆I出土

## 第5節 土坑

遺構名	出土位置	重複關係	規模(長×短×深さ)	長軸方位	遺物
D138	Eえ3	—	88×70×28(cm)	N-41°-W	環1出土
D157	Fお1	P774に切られる。	88×72×8	N-41°-W	環2出土
D161	Dあ9	—	70×60×12	N-20°-W	—
D162	Eい9	—	62×52×13	N-0°	渡来鏡6枚
D169	Eお5	—	80×62×13	N-5°-E	アカニシ



写真195 D30号土坑上層堆積状態（北より）



写真196 D30号土坑（北より）



写真197 D43号土坑上層堆積状態（北より）

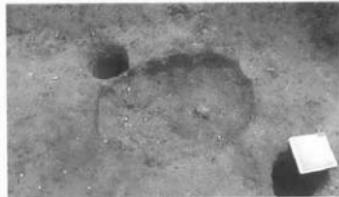


写真198 D43号土坑（北より）



写真199 D49号土坑上層堆積状態（西より）

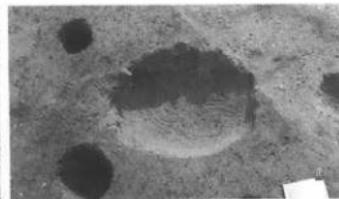


写真200 D49号土坑（西より）



写真201 D 73号土坑（北より）



写真202 D 81号土坑（北より）

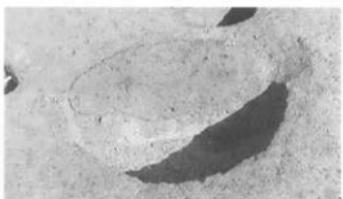


写真203 D 135号土坑土層堆積状態（南より）



写真204 D 135号土坑（南より）



写真205 D 138号土坑土層堆積状態（東より）



写真206 D 138号土坑（東より）



写真207 D 157号土坑土層堆積状態（西より）



写真208 D 157号土坑（南より）

第5節 土坑



第54図 II A 3 土坑 (D36・D78)

II A 3 (円形・中規模)

D36号土坑

検出位置 B < 3 重複関係 Ta17

規模 122cm×113cm×37cm

長軸方位 N-90°-W

出土遺物 1. かわらけ (他3)

2・3. 齒り鉢

4~8. 角釘

D78号土坑

検出位置 A < 8 重複関係 D94

規模 92cm×84cm×38cm

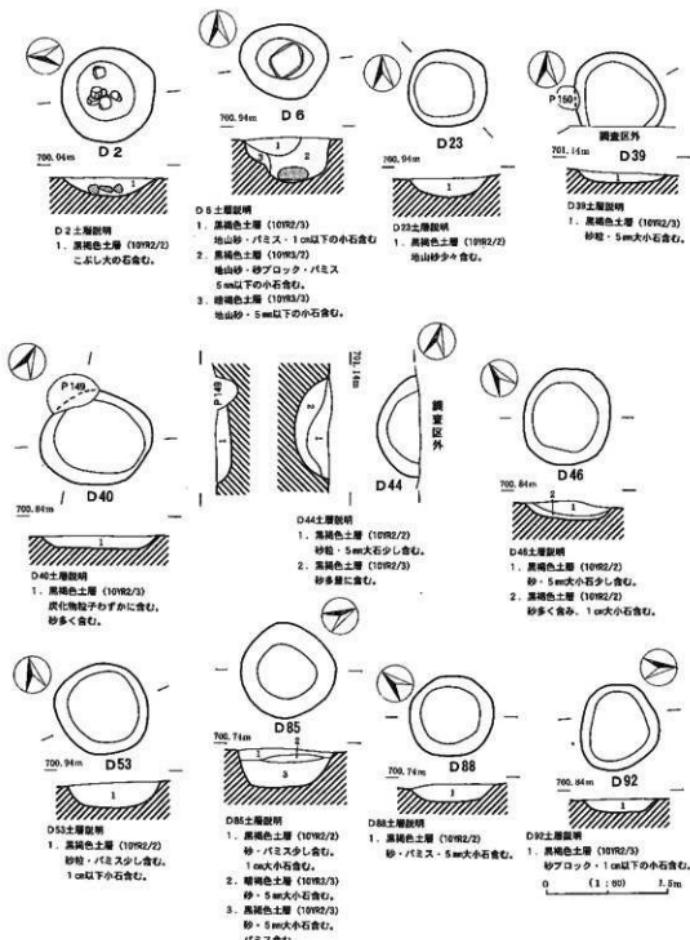
長軸方位 N-8°-W

出土遺物 1. 山茶碗系捏鉢 (13C)

2. 瓦質搖鉢 (在地13C末~14C前半)

3. 角釘

遺構名	出土位置	重複関係	規模(長×短×深さ)	長軸方位	遺物
D 2	B < 9	-	114×114×20(cm)	-	縄出土
D 6	B < 8	Ta10を切る。	101×93×53	N-90°	扁平石
D23	B < 6	-	96×92×25	N-90°	弥1、須1
D39	C < 1	P150に切られる。	116×107×19	N-45°-W	-
D40	B < 2	P149に切られる。	128×119×20	N-52°-W	-
D44	B < 4	東側区域外。	125×<60>×31	-	-
D46	B < 3	-	107×116×24	N-60°-E	かわらけ3
D53	B < 6	-	118×110×31	N-56°-W	土鍋2
D85	D < 10	-	119×119×51	-	-
D88	D < 10	-	101×99×21	N-10°-E	-
D92	E < 1	D93を切る。	104×94×18	N-90°	-
D99	E < 3	P510を切る。	130×114×51	N-38°-W	-
D105	E < 4	-	110×106×26	N-11°-E	縄1出土
D106	E < 5	-	104×96×52	-	-
D116	F < 1	-	99×98×21	-	-



第55図 II A3上坑 (D2- D6- D23- D39- D40- D44- D46- D53- D85- D88- D92)